

1共通事項

1.鉄筋の表示記号

呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
呼び径(d)	10	13	16	19	22	25	29
最外径(D1)	11	14	18	21	25	28	33
記号	●	×	⊘	●	○	⊙	⊗

2.鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

(1)鉄筋の最小かぶり厚さ

構造部位	最小かぶり厚さ		
	一般部	土に接する部分	
床スラブ、屋根スラブ、非耐力壁	30(mm)	40(mm)	
柱、梁、耐力壁	40(mm)	50(mm)	
基礎、基礎梁、耐圧板	—	60(mm)	
地下外壁、擁壁	40(mm)	60(mm)	
煙突	60(mm)	60(mm)	

柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合、主筋のかぶり厚さが径の1.5倍以上となるように最小かぶり厚さを定める。

打放し仕上げ部分で寸法の特記がない場合は、構造断面を20(mm)打増す。

打増しコンクリートの厚さは、かぶり厚さには考慮しない。

杭基礎の場合、基礎フーチングの鉄筋のかぶり厚さは杭先端からとする。

貫通孔に接する鉄筋においても、かぶり厚さを確保すること。

(2)鉄筋の最小間隔とあき

鉄筋相互のあきaは下記のうち最大のものとする。

(イ) a = 25(mm)

(ロ) a = 1.25×粗骨材最大寸法

(ハ) a = 1.5×d(鉄筋の呼び径)

粗骨材の最大寸法	あきの最小値(mm)								
	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35
20(mm)	25				29				
25(mm)	31				33	38	44	48	53

鉄筋の間隔 P = a + D1(鉄筋の最外径)

柱及び梁の主筋が二段階以上の場合、下図により鉄筋相互のあきを確保する。

(3)鉄筋の折曲げ基準

(1)フック形状(末端部)

折曲げ角度	詳細	折曲げ内法直径(D)			使用箇所
		SD295A、SD345	SD390		
		D16以下	D19～D38	D19～D38	
180°		3d以上	4d以上	5d以上	柱、梁の出隅部分の重ね継手 柱の両隣の柱頭 耐力の主筋 杭基礎のベース筋
135°		3d以上	4d以上	—	フープ及びスターラップ スライラル筋 壁筋末端部に使用するD19及びD13 幅止め筋
90°		3d以上	4d以上	—	T形、L形梁のスターラップに用いるキャップタイ スラブ筋、壁筋の末端部 幅止め筋

柱、梁の出隅部分とは、下図の●印の主筋とする。

(2)ベンド形状(中間部)

折曲げ角度	詳細	折曲げ内法直径(D)			使用箇所
		SD295A、SD345、SD390			
		D16以下	D19～D25	D29～D38	
90°以下		3d以上	4d以上	—	フープ及びスターラップ スライラル筋
		4d以上(5d以上)	6d以上	8d以上	

SD390は、使用箇所がその他の鉄筋の場合に()内を適用する。

4.継手及び定着

(1)継手及び定着基準

方法	詳細	使用箇所
フック有り		D16以下の鉄筋
フック無し		
あき重ね継手		スラブ筋及び壁筋のみ
ガス圧接継手		D19～D32の鉄筋(柱、梁の主筋等)
溶接継手(フープ溶接)		D16以下の鉄筋(フープ等、特記による)
特殊継手		D19以上の鉄筋(特記による)
溶接継手		
機械式継手		特記による
溶接金網の重ね継手		スラブ筋及び壁筋
定着(フック有り)		—
定着(フック無し)		—
溶接金網の定着		スラブ筋及び壁筋

(*)1 重ね継手で、相互の鉄筋径が異なる場合の重ね継手長さL1は細い方のdによる。

(*)2 特殊継手は、平成12年建設省告示第1463号「鉄筋の継手の構造方法を定める件」に適合するものとする。使用箇所は特記によることとし、工法は監理者の承諾を得ること。

(2)継手及び定着長さ

鉄筋種別	F _{ck} (N/mm ²)	フック無し				フック有り			
		L1	L2	小梁	スラブ	L1	L2	小梁	スラブ
SD295A	18	45d	40d	20d ^a	10d ^a かつ150mm以上	35d	30d	10d	—
	21	40d	35d		30d	25d			
	24～27	35d	30d		25d	20d			
	30～36	35d	30d		25d	20d			
SD345	18	50d	40d	20d ^a	10d ^a かつ150mm以上	35d	30d	10d	—
	21	45d	35d		30d	25d			
	24～27	40d	35d		25d	20d			
	30～36	35d	30d		25d	20d			
SD390	21	50d	40d	20d ^a	10d ^a かつ150mm以上	35d	30d	10d	—
	24～27	45d	35d		30d	25d			
	24～27	45d	35d		30d	25d			
	30～36	40d	35d		30d	25d			

L1：L2、L3以外の定着長さ、継手長さ。

L2：割裂破壊のおそれのない箇所への定着長さ。

L3：小梁及びスラブ下端筋の定着長さ、ただし、耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。

※：片持小梁、片持スラブの下端筋を直線定着とする場合は、25d以上とする。

※：末端部のフック長さ(l)は、上表の長さに含まない。

軽量コンクリートの場合、上表の値に5dを加える。

2杭

1-場所打ちコンクリート杭

スペーサー：FB-6×50 平面上に4ヶ所以上@3,000

補強リング：FB-9×65 @3,000以下かつ1節につき3ヶ所以上

鉄筋のかぶり厚さは100mmとする。

主筋の重ね継手およびフーチングへの定着長さは、45d以上とする。

フープは正しく円形に加工し、片面10d以上のフレアグルーパーク溶接にて接合する。

3基礎

1.基礎フーチングの納まり

(1)独立基礎・連続基礎

A. はかま筋が必要な場合

B. はかま筋が必要な場合

C. 二本杭以上の場合(断面リストを正とする。)

(2)杭基礎

A. 一本杭の場合

B. 一本杭で偏心する場合

2.基礎フーチングと基礎梁の接合部

(1)0<D≦500の場合

(2)500<D≦1,000の場合

3-耐圧スラブ(べた基礎)の納まり

(1)最終端

A. 特記無き場合、下図とする。

B. 地震時に浮上りが生じる場合(特記による)

(2)連続端

4基礎梁

1.継手位置、定着及び余長

主筋の継手位置は下図の斜線内とする。

基礎梁の連続端で柱に接する梁筋が同数の場合、主筋は柱をまたいで引き通す。柱をまたいで主筋を引き通すことができない場合は、柱内に定着する。

梁主筋のみ込み長さは柱せいみの1/2倍以上とする。

(1)独立基礎、杭基礎で基礎梁にスラブが付かない場合

(2)独立基礎、杭基礎で基礎梁にスラブが付く場合

(3)連続基礎、べた基礎で地反力を受ける場合

2.スターラップ

(1)形状及びサブ・スターラップ(中子筋)

A. 梁せいが1,500mm未満の場合→6.2-(1)、(2)による。

B. 梁せいが1,500mm以上の場合

梁の上下端にスラブが付く場合に限り、以下の形状も可能とする。

ホは、90°フック(◎印)側にスラブが付く場合にのみ可能とする。

へで、重ね継手の代わりに特殊継手を用いる場合は監理者の承諾を得ること。

3.腹筋及び幅止め筋→6.3による。

4.打増し補強筋→6.4による。

5.杭芯ずれに対する補強方法(例)

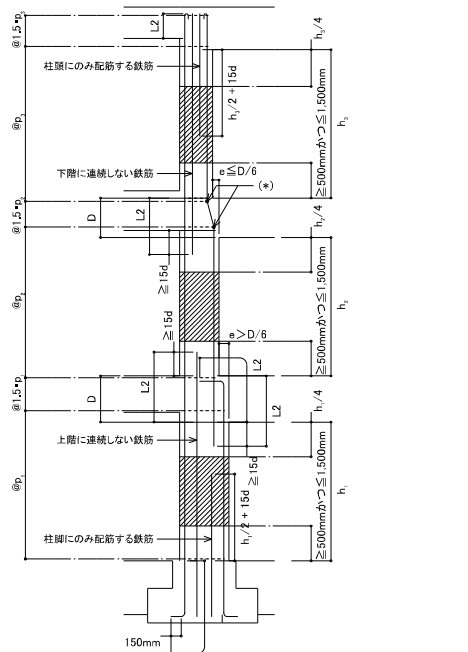
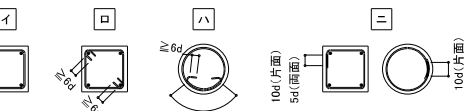
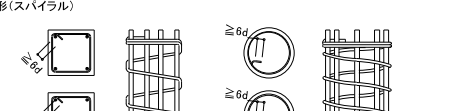
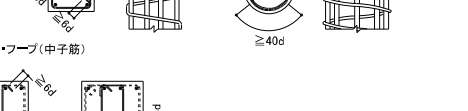
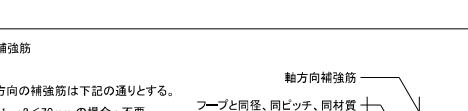
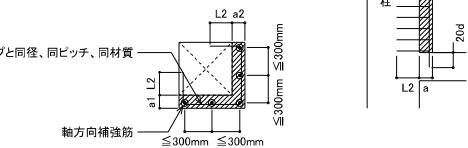
実際の補強方法は、監理者の指示による。

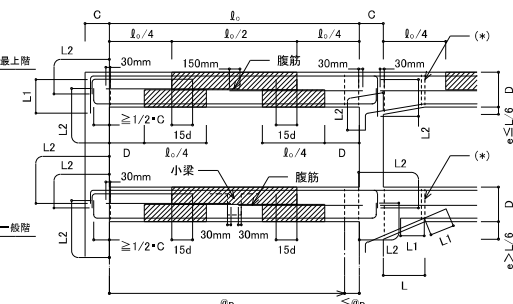
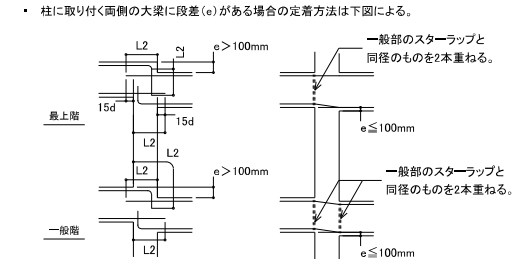
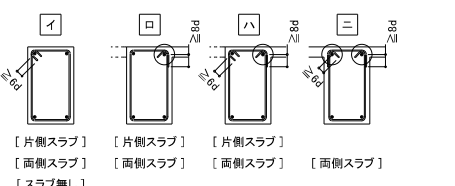
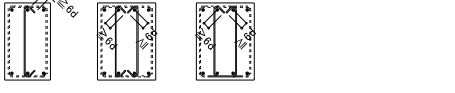
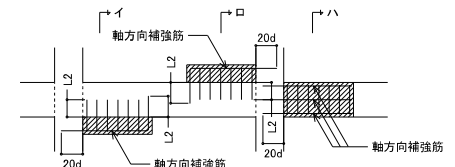
e≦100mmの場合、補強は不要とする。

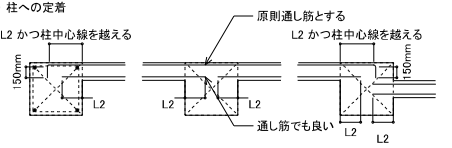
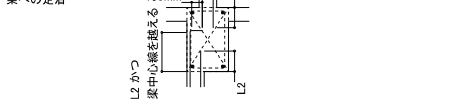
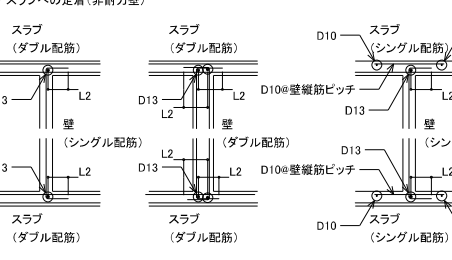
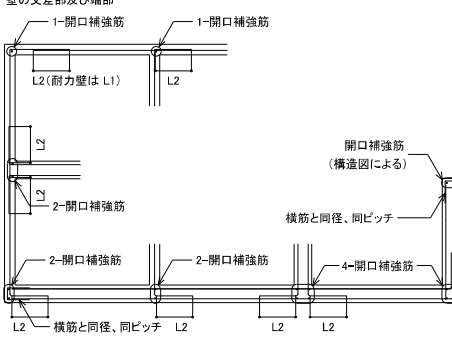
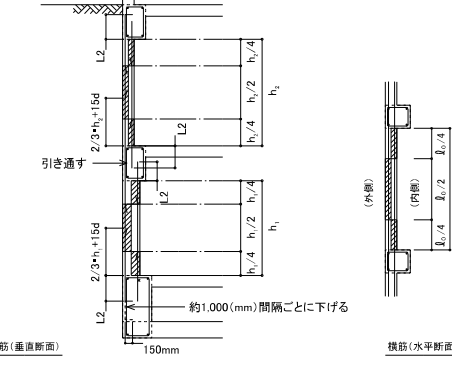
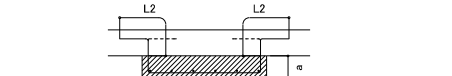
耐力壁付きの梁については、原則として補強は不要とする。

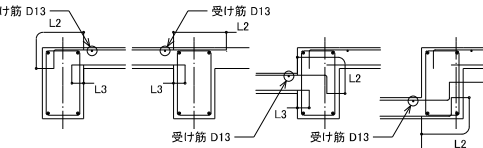
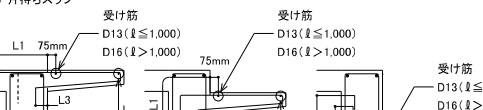
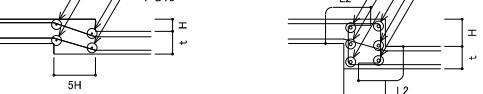
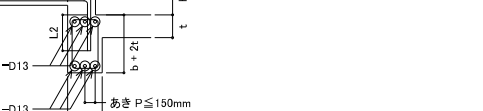
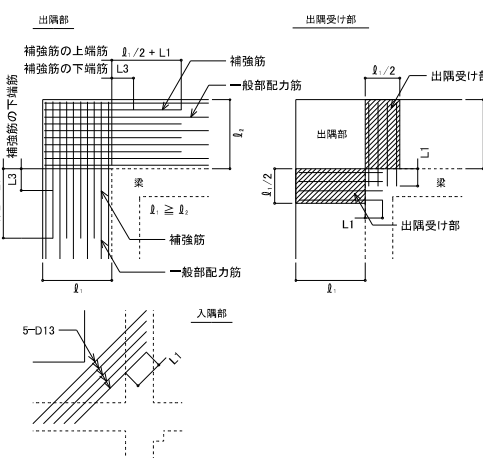
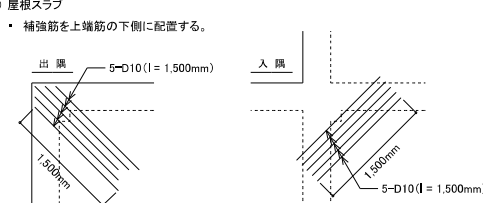
下表の範囲を超える場合は、監理者に確認を得ること。

杭本数	径	偏心距離(mm)	A部分		B部分		せん断補強
			補強筋L(mm)	補強筋L(mm)	補強筋L(mm)	補強筋L(mm)	
5,4	600φ	100<e≦200	2-D29	4,000	2-D29	4,000	不要
		200<e≦300	2-D29	4,000	2-D29	4,000	
3,2	600φ	100<e≦200	2-D29	4,000	2-D29	4,000	不要
		200<e≦300	2-D29	4,000	2-D29	4,000	
1	600φ	100<e≦200	2-D29	4,000	2-D29	4,000	不要
		200<e≦300	2-D29	4,000	2-D29	4,000	

5	柱
1. 継手位置、定着及び余長、フープの割付け	
- 主筋の継手位置は下記の 内とする。 - 柱頭の定着長さ L_2 が確保できない場合の定着方法は、構造図の特記による。 - 柱頭主筋のうち出隅に位置するものには180°フックを付ける。 ----はフープの割付け基礎(第一帯筋)を示し、梁上端筋の直上及び下端筋の直下に設ける。 (*)$e \leq D/6$ の場合、柱主筋の折曲げ基点は梁主筋との交点とする。フープは、一般部と同径、同材質のものを2本重ねる。 	
2. フープ	
- フープの形状は構造図の特記による。特記がない場合はH形とし、135°フックが困難な場合はW-1形とする。 - フック及び継手位置は上下階で同一箇所に集中させず、交互にずらす。 - SPにおいて、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻き以上の添巻きを行う。 (1) H形(フック先曲げ)  (2) W-1形(溶接閉鎖)  (3) SP形(スパイラル)  (4) サブ・フープ(中子筋) 	
3. 打増し補強筋	
- 軸方向の補強筋は下記の通りとする。 (1) $a1, a2 < 70\text{mm}$ の場合：不要 (2) $70\text{mm} \leq a1, a2 \leq 200\text{mm}$ の場合：D16、鉄筋同士のあき $P \leq 200\text{mm}$ (3) $a1, a2 > 200\text{mm}$ の場合：柱主筋と同径、鉄筋同士のあき $P \leq 200\text{mm}$ - 取り合う梁及び壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。 	

6	梁																								
1. 継手位置、定着及び余長、スターラップの割付け																									
- 主筋の継手位置は下記の 内とする。 - 下端筋は上向き定着とする。やむを得ず下向き定着する場合は、監理者の承認を得ること。 - 梁の連続端では、主筋は柱をまたいで引き通すことを原則とする。 - 柱をまたいで主筋を引き通すことができない場合は、柱内に定着する。 - やむを得ない場合のみ、柱面から定着長さ L_2 を確保して反対側の梁に定着する。 - 特記無き場合、梁主筋のみ込み長さは柱せいの1/2倍以上とする。 ----はスターラップの割付け基礎を示し、第一スターラップは柱側面を基準に割り付ける。 - 特記無き場合、梁ハンチの傾斜は1/4とする。 (*)ハンチの折曲げ基点には、一般部のスターラップと同径、同材質のものを2本重ねる。 (1) 大 梁  (2) 小 梁 - 連続梁 - 単独梁 - 片持ち梁 																									
2. スターラップ																									
(1) 形 状 90°フック(○印)は、スラブ側のみ付けて良い。それ以外は135°フックとする。 - イの135°フックの位置は交互とする。 - ロ～ニはスラブと同時にコンクリートを打ち込む場合に用いて良い。  (2) サブ・スターラップ(中子筋) - 末端は原則として135°フックとするが、スラブが傾く側のみ90°フックとしても良い。  (3) 柱面と梁面が同一になる場合の納まり - 柱主筋径だけスターラップ幅を狭めて加工する。 																									
3. 腹筋及び幅止め筋																									
<table><tr><th>梁せい(mm)</th><th>段 数</th><th>腹 筋</th><th>幅止め筋</th></tr><tr><td>$D < 600$</td><td></td><td>不 要</td><td></td></tr><tr><td>$600 \leq D < 900$</td><td>1</td><td>2-D10</td><td></td></tr><tr><td>$900 \leq D < 1,200$</td><td>2</td><td>4-D10</td><td></td></tr><tr><td>$1,200 \leq D < 1,500$</td><td>3</td><td>6-D10</td><td></td></tr><tr><td>$1,500 \leq D < 1,800$</td><td>4</td><td>8-D13</td><td></td></tr></table> - 梁せいが上表を超える場合、梁せい 300mm ごとに1段(2-D13)を加える。 - 腹筋端部は、梁の第一スターラップから 30mm 程度つきだしてスターラップに結束する。		梁せい(mm)	段 数	腹 筋	幅止め筋	$D < 600$		不 要		$600 \leq D < 900$	1	2-D10		$900 \leq D < 1,200$	2	4-D10		$1,200 \leq D < 1,500$	3	6-D10		$1,500 \leq D < 1,800$	4	8-D13	
梁せい(mm)	段 数	腹 筋	幅止め筋																						
$D < 600$		不 要																							
$600 \leq D < 900$	1	2-D10																							
$900 \leq D < 1,200$	2	4-D10																							
$1,200 \leq D < 1,500$	3	6-D10																							
$1,500 \leq D < 1,800$	4	8-D13																							
4. 打増し補強筋																									
- 軸方向の補強筋は下記の通りとする。 (1) $a < 70\text{mm}$ の場合：不要 (2) $70\text{mm} \leq a \leq 200\text{mm}$ の場合：D16、鉄筋同士のあき $P \leq 150\text{mm}$ ただし、打増し部に耐力壁(耐震壁、土圧壁)が取付く場合で、壁筋がD19以上の場合は壁筋と同径以上とする。 (3) $a > 200\text{mm}$ の場合：梁主筋と同径、鉄筋同士のあき $P \leq 150\text{mm}$ - 梁の打増し部分に取り合う梁、壁、スラブの鉄筋の定着長さは打増し部分を除いて算定する。 																									

7	壁
1. 継手及び定着	
- 重ね継手長さは、耐力壁(耐震壁、土圧壁)は L_1、その他は L_2 とし、定着長さは L_2 とする。 - 幅止め筋は、縦横とも D10@1,000mm とする。 (1) 柱への定着  (2) 梁への定着  (3) スラブへの定着(非耐力壁)  (4) 壁の交差部及び端部 	
2. 地下外壁の継手及び定着	
- 地下外壁の継手位置は下記の 内とする。 - 外側縦筋は基礎梁主筋の内側に納め、約1,000mmピッチごとに耐力板上端もしくは基礎梁打継面まで下げる。中間層では通し配筋とする。 	
3. 打増し補強筋	
(1) $a < 50\text{mm}$ の場合：不要 (2) $50\text{mm} \leq a < 200\text{mm}$ の場合：縦筋は D10@200、横筋は D10@横筋と同ピッチ (3) $200\text{mm} \leq a$ の場合：縦筋、横筋とも壁筋と同径、同ピッチ 	

8	スラブ
1. 定 着	
スラブ筋のかぶり厚さの確保は、バーサポート(φ600 以下)によること。 (1) 周辺固定スラブ  (2) 片持ちスラブ 	
2. スラブ段差の納まり	
(1) $H \leq 70\text{mm}$ の場合  (2) $70 < H \leq 150\text{mm}$ の場合  (3) $150 < H \leq 300\text{mm}$ の場合  (4) $300\text{mm} < H$ の場合：構造図の特記により小梁を設ける。	
3. 出隅、入隅部分の補強	
(1) 片持ちスラブ - 出隅部補強筋はスラブ主筋と同径、同ピッチとし、ダブル配筋とする。 - 出隅受け部補強筋はスラブ主筋と同径@100mmピッチとし、ダブル配筋とする。  (2) 屋根スラブ - 補強筋を上端筋の下側に配置する。 	

9 開口補強

1. 梁貫通孔

(1) 貫通孔の径、位置、配置

- 孔径は、梁せいDの1/3以下とする。孔が円形でない場合は、これの外接円とする。
- 孔の上下方向の位置の限度dは下図の通りとする。
- 孔の左右方向の位置の限度は、柱及び直交する梁(小梁)面から原則として1.2D以上離す。
- 孔が並列する場合の中心間隔(水平距離)は、隣接する孔径の平均値の3倍以上とする。

(2) 補強要領

- 補強方法は、原則として下図の方法とする。これ以外の配筋要領とする場合、もしくは、既製品による補強を行う場合は監理者の承認を得ること。
- 縦筋及び下筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 補強筋は、原則として主筋の内側とする。
- 孔径が梁せいの1/10以下かつ150mm未満のものは、補強を省略する事ができる。

記号	貫通孔径 R(mm)	梁せい D(mm)	斜め筋	縦筋	横筋	上縦筋 下縦筋	箇所数
H1			2-2-D13	なし	なし	なし	
H2			2-2-D13				
H3			4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4			4-2-D16				
H5			4-2-D16				
H6			4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H7			4-2-D22				

・凡例

斜め筋：4-2-D22 → 4本のD22を2面に配置する

縦筋：4-2-D13 → 4本のスターラップ形状のD13を孔の両側に配置する

上下縦筋：3-2-D13 → 3本のスターラップ形状のD13を孔の上下に配置する

2. 壁開口

- 補強筋の径、本数は構造図による。
- 開口部の最大径が200mm以下で、鉄筋を緩やかに曲げることで開口部を避けて配筋できる場合は補強を省略できる。
- e≤200mmの場合、破線で示した補強筋は不要とする。

3. スラブ開口

(1) 開口の範囲

- スラブの開口可能範囲は、原則として下図の斜線部分とする。
- 施工時に一時的に設ける開口(ダマ穴)は、原則として設けないこととするが、やむを得ず設ける場合は下図に準じて配置の計画をし、監理者の承認を得ること。

(2) 補強要領

A 開口部の最大径が200mm以下の場合

- 単独の開口(孔径の3倍以上離れている場合も含む)で、鉄筋を緩やかに曲げることで開口を避けて配筋できる場合は補強を省略できる。この場合、スラブ筋をずらしても良い。

・複数の開口を連続して設けた場合、開口群を一つの開口と見なし補強筋を設置する。

B 開口部の最大径が700mm以下の場合

- 開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D10シングルを上下筋の内側に配筋する。

10 設備配管

1. 柱・梁

- 柱への打込みは行わないこと。コンセントボックスなどを設置する場合は柱断面を打増し、5.3に従って補強筋を配筋すること。
- 梁に打込む場合は、事前に監理者の承認を得ること。

2. スラブ

- 上下スラブ筋の間に通す。
- スラブ筋と平行に沿わせないこと。
- スラブ内に配管が集中する場合は、事前に監理者に報告の上、協議すること。

3. 壁

- ダブル配筋の場合、壁筋の内側に通す。
- シングル配筋の場合、壁の中央に通す。

11 雑配筋詳細

1. 基礎スラブ配筋

蓋場記号	位置	軸	通り	大きさ	スラブ厚
				B(mm) D(mm) H(mm)	t(mm)

2. 置きスラブと基礎梁の接合(シアコネクター)

3. 土間スラブの補強

4. コンクリート・ブロック受け

- 水平、垂直とも同様とする。

5. 機械基礎

A形

B形

基礎記号	位置	軸	通り	形状	大きさ
					B(mm) D, L(mm) H(mm)

6. バラベット

7. 手すり

8. 耐震スリット(完全絶縁型)

- スリットの位置は構造図の特記による。

7 木工事

① 一般事項

- ・ 木材・接合金物等の製作にあたり製作要領書を作成して監理者の承諾を受けること。
- ・ 工事に先立ち、必要な製作図と共に施工要領書を作成して監理者の承諾を受けること。
- ・ 各工程の施工終了後はすみやかに施工記録を作成して監理者に提出すること。

② 木質材料

● 樹種及び産地

- ・ 杉、カラマツについては「災害時における相互応援に関する協定」を締結している次の産地を材を使用すること。

樹種	産地	使用箇所
・ スギ	山形県白鷹町	構造材
・ カラマツ	長野県須坂市	構造材

● 構造用製材

- ・ 平成13年日本農林規格1596号「針葉樹の構造用製材の日本農林規格」に準ずること。
- ・ 乾燥の際割裂りを行う。見えがかり部、相欠き部材、構造用合板の釘接合面には行わない。
- ・ 含水率は平均含水率とし、15（％）以下（D15）とすること。
- ・ 構造用製材の種類、強度、区分等は下表による。
- ・ 材の曲がりについては、下記にかかわらず目視等級1級相当とする。

樹 種	等級区分	種 別	等 級	使用箇所
ヒノキ	機械区分等級	—	E 90 以上	土台
スギ (山形県白鷹町)	機械区分等級	—	E 70 以上	柱
ベイツマツ	無等級	—	—	垂木

● 構造用集成材、構造用単板積層材

- ・ 平成15年日本農林規格235号「構造用集成材の日本農林規格」、同236号「単板積層材の日本農林規格」に準ずること。
- ・ JAS品質検査記録証明書を提出すること。
- ・ ラミナは、全数グレーディングマシン（MGS）による機械的等級区分されたラミナ材（MSR材）を使用する。また、ラミナの幾層ぎは垂直フィンガージョイントとし、フィンガー長さ18（mm）以上とする。ラミナの乾燥は高温高温脱脂乾燥方式とし、含水率 15（％）以下とする。
- ・ ホルムアルデヒド放散等級 F☆☆☆☆
- ・ 構造用集成材、構造用単板積層材の種類、強度、区分等は下表による。

樹 種	等級区分	等 級	材質品質	使用箇所
スギ (山形県白鷹町)	同一等級構成集成材	E75-F270	2 種	柱
カラマツ (長野県須坂市)	対称異等級構成集成材	E105-F300	2 種	梁

● 構造用合板

- ・ 平成15年日本農林規格233号「合板の日本農林規格」に準ずること。
- ・ 接着等級 特類（屋外等、常時湿潤状態にある場所）、Ⅰ類（その他）
- ・ 強度等級 2級 B-C
- ・ ホルムアルデヒド放散等級 F☆☆☆☆

③ 接合材料

● 釘

- ・ JIS A 5508 に適合すること。
- ・ 材質 鉄（亜鉛メッキ処理したもの）またはステンレス
- ・ 種類
 - ・ N 釘
 - ・ CN 釘 耐力壁、準耐力壁、床板、屋根板
 - ・ ZN 釘 Cマーク、Zマーク金物
 - ・ ZS 釘 Zマーク金物

● 木ネジ

- ・ JIS B 1112（十文字孔付き木ネジ）もしくは JIS B 1135（十文字孔付き木ネジ（皿木ネジ、丸皿木ネジ））に適合すること。

● ボルト・ナット

- ・ 呼び径六角ボルトは JIS B 1180 に適合すること。
- ・ 有効径六角ボルトは JIS B 1180 に適合すること。
- ・ 金ネジ六角ボルトは JIS B 1180 に適合すること。

● コーチボルト（ラグスクリーユ）

- ・ JIS G 3507 に適合すること。
- ・ 材質 SWRCH10R

● ドリフトピン

- ・ 材質 SS400

● 座金

- ・ JIS G 3131 に適合すること。
- ・ ボルトに使用する座金は原則として丸座金とし、寸法は下記による

ボルト	M8	M10	M12	M16	M20	M24
引張	4.5	4.5	6.0	9.0	9.0	13.0
ボルト直 径	45	60	70	90	120	140
せん断	3.2	3.2	3.2	4.5	6.0	6.0
ボルト直 径	30	35	40	60	70	80

● アンカーボルト

- ・ JIS G 3101 に適合すること。
- ・ 材質 SS400 同等以上

● 既製金物

- ・ 既製金物及び接合具は以下のいずれかを使用する。
- ・ (財)日本住宅・木材技術センター「軸組工法用金物規格」による Zマーク金物
- ・ (財)日本住宅・木材技術センター「3階建て木造住宅用金物規格」による Z、Cマーク金物
- ・ 上記金物と同等以上の性能を有する同等認定金物（Oマーク金物）又は、性能認定金物（Sマーク金物）を使用する場合は、監理者の承諾を得ること。

● その他の金物

- ・ JIS G 3101 等を準用すること。
- ・ 材質 SS400 同等以上
- ・ 防錆処置として溶融亜鉛メッキを施す。

④ 製作、加工

- ・ 加工寸法は以下を標準とする。

● 構造用製材

- ・ 断面寸法 ±1.5（mm）以下
- ・ 材長 在来軸組工法の継手・仕口の場合：±1.5（mm）以下
ボルト接合の場合：±5.0（mm）以下
- ・ 直角と の歪み ±1/100 以下

● 集成材、構造用単板積層材

- ・ 短辺 ±1.5（mm）以下
- ・ 長辺 ±1.5（％）かつ±5.0（mm）以下
- ・ 材長 ±5.0（mm）以下

● 接合具の先孔径、深さ

- ・ 木ネジ 針葉樹の場合、主材：0.6d、側材：0.8d
広葉樹の場合、主材：0.8d、側材：1.0d
- ・ ボルト M12 以下：d±1.5（mm）以下
M16 以上：d±2.0（mm）以下
- ・ コーチボルト 2段空けを原則とする。胴部の先行孔は同寸、ネジ部は部材の樹種に応じて 40～75（％）とする。深さはネジ部と同等とする。
- ・ ドリフトピン d±0（mm）

● 金物

- ・ 幅、長さ ±1.0（mm）以下
- ・ ボルト孔径 ±1.0（mm）以下
- ・ ボルト孔芯距離 ±1.0（mm）以下

- ・ 表面仕上げの程度は要求に応じた仕様とする。
- ・ 面取りの程度は要求に応じた仕様とする。

⑤ 建方

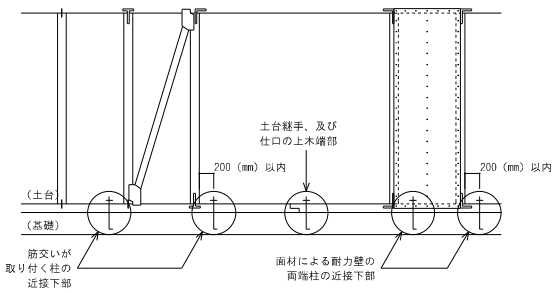
● アンカーボルトの設置

- ・ 芯出しは、型板を用いて基準墨に正しく合わせ適切な機器等で正確に行う。
- ・ アンカーボルトは鉄筋等を用いて組み立て、適切な補助材で型枠等に固定してコンクリートの打設を行う。
- ・ アンカーボルトは二重ナットとする。
- ・ 土台の孔空けは、コンクリート打設後にボルトの通り芯からのずれを計測してから行う。ずれの許容値は±3.0（mm）とする。
- ・ 埋込み位置および埋込み長さは下記による。

● 径、本数は構造図による。

● 埋込み位置は構造図による。特記無き場合、耐力壁および土台の継手、仕口以外での埋込み間隔は 2.7（m）以内（3階建ての場合は 2.0（m）以内）とする。

● 埋込み長さ M12：250（mm）以上、M16：360（mm）以上



● 建方の精度基準は下記による。建方精度に不具合が生じた場合、速やかに監理者に報告して対応策を協議する。

- ・ 建物の倒れ $e \leq H/2, 500 + 10$ （mm）かつ $e \leq 50$ （mm）
- ・ 建物の湾曲 $e \leq H/2, 500$ （mm）かつ $e \leq 25$ （mm）
- ・ 横架材の水平度 $e \leq L/700 + 5$ （mm）かつ $e \leq 15$ （mm）
- ・ 柱据付け面の高さ及び位置
 - ・ 高さのずれ 基準高さから±3.0（mm）以下
 - ・ 通り芯からのずれ±3.0（mm）以下
 - ・ 階高 ±5.0（mm）以下

● 確認・検査項目

- ・ 書類確認
 - 施工図（プレカスト図を含む）
 - 材料規格証明書
 - 輸送計画書
 - 建方計画書
- ・ 立会い検査
 - アンカーボルト施工時検査
 - 接合部金物施工時検査
 - 地組み時検査
 - 建方検査（軸組、耐力壁等の施工完了時）

⑥ 接合

● 釘接合

- ・ 釘は材の繊維に対して乱に打ち、割れを生じないように間隔を大きくとる。
- ・ 釘の長さは、原則として材厚の2.5倍以上とする。
- ・ 1箇所 の釘の本数は2本以上とする。
- ・ 釘に錆が生じる恐れがある場合は、適切な防錆処理を施す。
- ・ 自動釘打ち機を使用する場合は、面材に釘がめり込まないようにする。
- ・ 構造用面材を耐力壁とする場合の釘打ち方法は、昭和56年建設省告示第1100号による。
- ・ 構造耐力上主要な部分において、釘を引抜き方向に抵抗させない。
- ・ 小口面に打たれた釘は、引抜き方向に抵抗させることはできない。

● 木ネジ接合

- ・ ねじ込みに適切な道具を使用し、ハンマーなどで打ち込まないこと。
- ・ 構造耐力上主要な部分において、木ネジを引抜き方向に抵抗させない。
- ・ 小口面に打たれた木ネジは、引抜き方向に抵抗させることはできない。

● ボルト接合

- ・ 締付けに先立ち、ボルトの長さ・材質・呼び径・座金等が施工箇所に適したものであることを確認する。
- ・ ボルト接合部付近に節・目切れなどの欠点がある場合は、ボルト本数を適切に増加する。
- ・ ボルトの締付けは座金が部材へめり込む程度とし、めり込み音が発生した時点で終了する。
- ・ 締付けを完了した引張ボルトは、ねじ部がナットから2山以上突き出ていることを確認する。
- ・ 座金のめり込みの程度及びねじ山の出を、目視により確認する。
- ・ 一度締め付けたボルトについても、工事期間中の木材の乾燥収縮等によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締直しを行うこと。

● コーチボルト（ラグスクリーユ）接合

- ・ コーチボルトの配置間隔、端距離、使用する座金は同じ胴部径のボルトに準ずる。
- ・ 先孔にレンチなどで回しながら挿入し、ハンマーなどで打ち込んでではない。
- ・ 構造耐力上主要な部分において、コーチボルトを引抜き方向に抵抗させない。

● ドリフトピン接合

- ・ ボルトやコーチボルトを併用し、ドリフトピンの変形にともなう部材の開きを防止する。
- ・ 先孔に密着させる。
- ・ 一度締め付けた併用ボルトについても、木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締直しを行う。

● 金物工法

- ・ 採用工法 テックワンP3 またはその同等品
- ・ 採用部位 柱頭柱脚金物部分 および、柱梁接合部
- ・ 金物の取付けは、それぞれの仕様に基づき工場加工 及び現場加工を行う。

○ 接着接合

- ・ 接合部の耐力は、使用材料および使用方法に適した接着性能の試験を行い確認する。
- ・ 接着剤を用いた接合を行う手順は、接着剤製造業者の推奨する接着仕様に従うとし、実験によって接合部に要求される耐力と耐久性が立証された場合、その作業条件を標準とする。

● 既製金物の接合

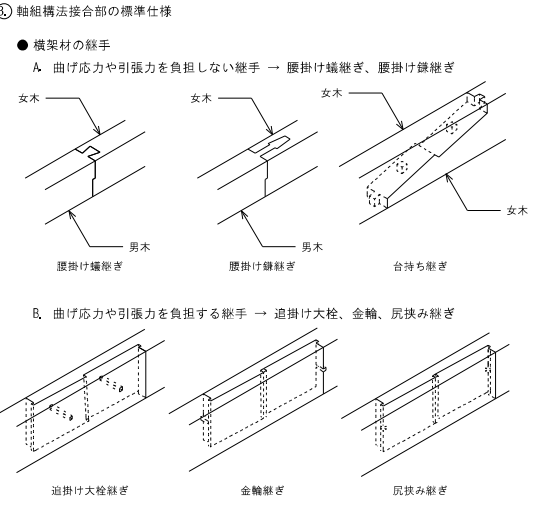
- ・ 羽子板ボルト、ひら金物、短冊金物、かね折り金物および箱金物などの取付けは、それぞれの仕様に基づき、接合両材の間が密着するように締め付ける。

● その他の方法による接合

- ・ 使用材料および使用方法は特記に、監理者の承諾を得る。

7. 耐久性（防腐・防蟻・耐候処理）

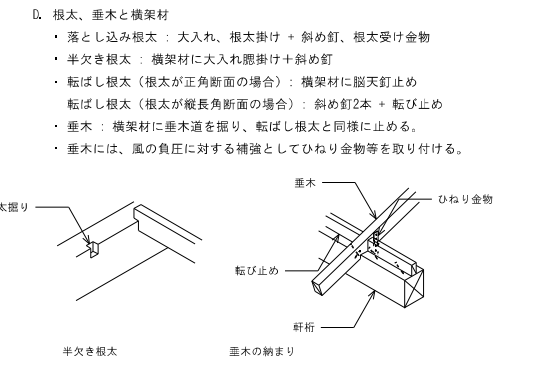
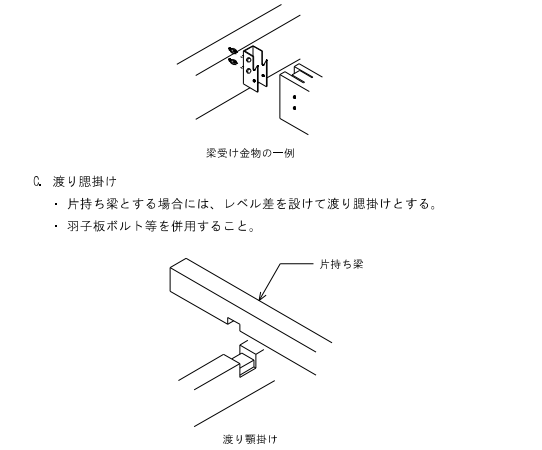
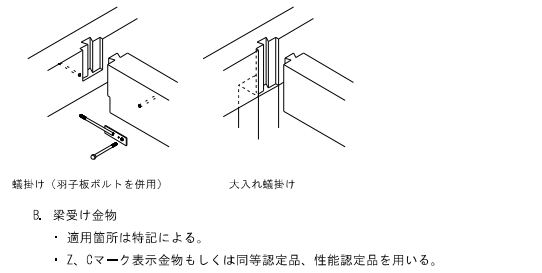
- ・ 構造耐力上主要な部分である柱、筋かい及び土台のうち、地面から1m以内の部分には、有効な防腐・防蟻処理を講ずる。
- ・ 木材の防腐・防蟻処理は下記のいずれかにによる。
 - 高耐久材の使用（製材の心材、心持ち材または集成材とする）
 - 工場処理（現場の加工、切断、穿孔箇所等は、現場処理に準じる）
 - ・ 処理剤 ○ JAS保存処理剤 【○ K2 ○ K3 ○ K4】
 - AQ認証材保存処理剤 【○ 1 種 ○ 2 種 ○ 3 種】
 - 現場処理（給排水用塩化ビニル管に接する部分は、管を保護する）
 - ・ 処理方法 【○ 塗布 ○ 吹付け ○ 浸漬】
 - ・ 日本しろあり対策協会または日本木材保存協会の認定品とする。
- ・ 土壌処理は下記のいずれかによる。
 - 防蟻薬剤による処理
 - ・ 日本しろあり対策協会または日本木材保存協会認定品、あるいはこれと同等以上の効力を有するものとする。
 - 防蟻薬剤による処理と同等以上の対策
 - ・ 対策方法 防蟻コンクリート（土間スラブ）
 - 防蟻処理の省略（北海道、東北地方、北陸地方）



● 横架材同士の仕口

A. （大入れ）蟻掛け

- ・ 男木の梁せいが女木の2/3以下かつ仕口直下に柱がある場合は大入れとしてよいが、そうでない場合は男木のせいの2/3程度の顎をかける。
- ・ 羽子板ボルト等を併用すること。



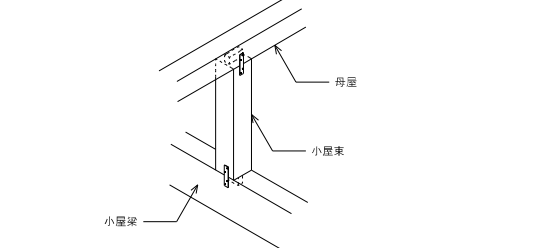
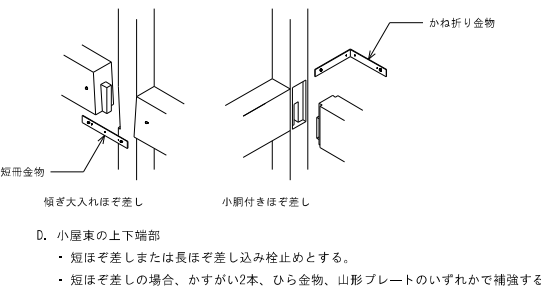
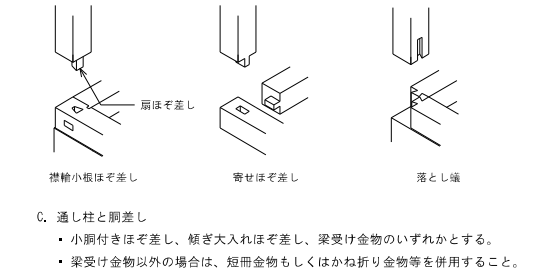
● 鉛直材と横架材の仕口

A. 柱の上下端部：短ぼぞ差し、長ぼぞ差し込み桟止め

- ・ 構造図に記載の柱頭・柱脚接合部金物を併用する。

B. 土台の出隅入隅部

- ・ 土台同士は襖輪小根ぼぞ差しまたは寄せぼぞ差し、柱脚部は肩ぼぞ差し又は寄せぼぞ差し（ただし、柱脚の場合は落とし鎖）とする。
- ・ 構造図に記載の柱脚接合部金物を併用する。

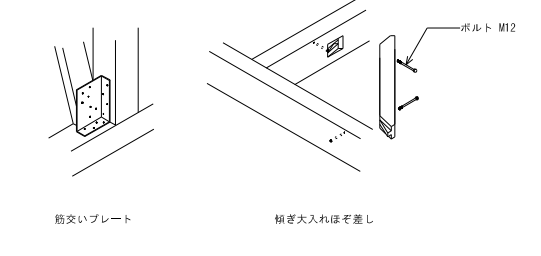


○ 筋交い端部

- ・ 平成12年建設省告示第1460号の例示仕様または同等認定品とする。

○ 火打ち、方柱

- ・ 角材を用いる場合、端部は傾ぎ大入れぼぞ差し + ボルト締めとする。
- ・ Zマーク鋼製火打ちまたは同等認定品としてもよい。



9. 耐力壁の施工方法

- 木製筋交い
- 断面寸法は 15×90 (mm) 以上とし、構造図による。
 - 見付け平使いとする。
 - 筋交い端部の接合は、平成12年建設省告示第1460号例示仕様または同等認定品とする。
 - 筋交いが間柱と取合う部分は、間柱を筋交いの厚さだけ欠き取るか、間柱を分割して筋交いを通す。
 - 幅が 90 (mm) 未満のたすき掛け交差部は、筋交い同士をずらして双方を通し、交差部にN75釘両面打ちとする。
 - 幅が 90 (mm) 以上のたすき掛け交差部は、筋交いの一方を通して他方は筋交い当たり傾ぎ大入れ、それぞれ M12ボルト締めとし、両面をひら金物釘打ちとする。
- 鉄筋筋交い
- 直径9 (mm) 以上とする。
 - 筋交い端部の接合は、平成12年建設省告示第1460号例示仕様または同等認定品とする。

● 構造用面材

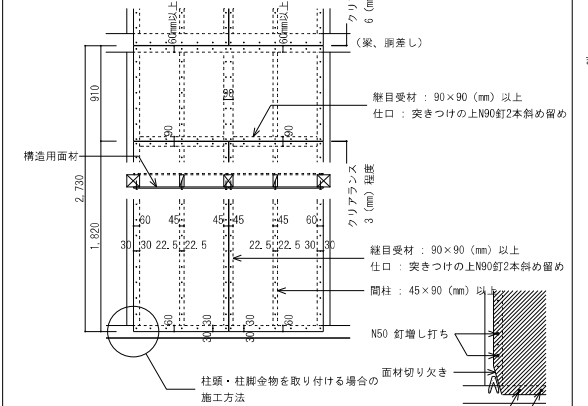
・面材貼り耐力壁に使用する構造用面材の種類は下表のいずれかとし、使用箇所および厚さは構造図による。

・構造用面材は、釘で構造部材に確実に留め付ける。釘打ち間隔および釘の種類は面材の種類に応じて下表の通りとする。

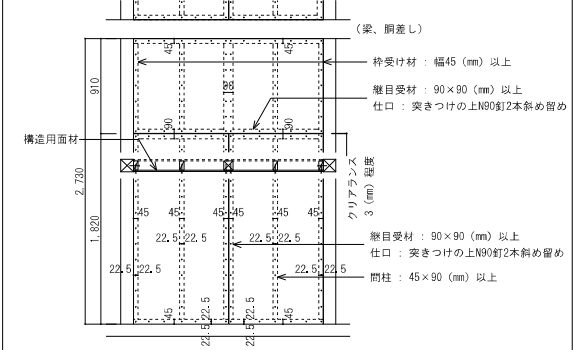
	構造用面材	材料規格	最小厚さ	釘の種類	間 隔
●	構造用合板	JAS 233	12 (mm)	N50、CN50	75、150 (mm)
○	パーティクルボード	JIS A 5908	12 (mm)		
○	構造用パネル	JIS A 238	—		
○	ハードボード	JIS A 5905	5 (mm)	GNF40、GNC40	150 (mm)
○	硬質木片セメント板	JIS A 5404	12 (mm)		
○	プラスターボード	JIS A 6901	12 (mm)		
○	シーキングボード	JIS A 5905	12 (mm)	SN40	100 (mm)
○					

- ・構造用面材は 3'×8' 縦横貼りを基本とする。3'×6' 版を使用する場合は、縦、横貼りとする。
- ・構造用面材の継手は突きつけ継ぎとし、継目下に90×90 (mm) 以上の受け材を設ける。継目のクリアランス幅は3 (mm) 程度とする。
- ・間柱および胴縁の断面寸法は、45×90 (mm) 以上とする。

- 大壁仕様
- 上下階で同位置に構造用面材の耐力壁を設ける場合、面材同士に胴差し部分で6 (mm) 以上のクリアランスを設ける。



- 真壁仕様
- 幅45 (mm) 以上の枠受材を、N90釘もしくはコーススレッドビス (L=120mm) を用いて釘打ち間隔 300 (mm) で柱、梁、胴差し等に固定する。



- ① 床面、屋根面の施工方法
- 木製火打ち梁
- 断面寸法は 90×90 (mm) 以上とする。
 - はり、胴差し、桁等との仕口は傾ぎ大入れとし、六角ボルト締めとする。ただし、横架材の上端もしくは下端に取り付ける場合は渡り懸掛けとし、六角ボルト締めとする。

- 鋼製火打ち梁
- Z、Cマーク同等認定品を使用すること。
 - 使用箇所は構造図による。

- 構造用面材
- 床下地板に構造用面材を用いて、火打ち梁を省略した剛床とする場合に適用する。
 - 床下地板の大きさは 3'×6' 版とし、こま切れしたものは使用しない。
 - 床下地板に使用する構造用面材の種類は下表のいずれかとし、使用箇所および厚さは構造図による。
 - 構造用面材は、釘で構造部材に確実に留め付ける。釘打ち間隔および釘の種類は面材の種類に応じて下表の通りとする。

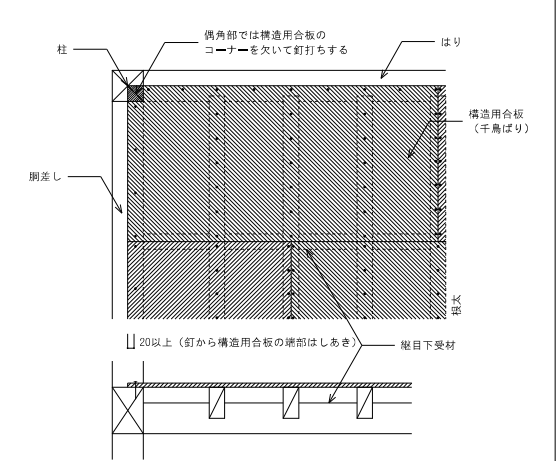
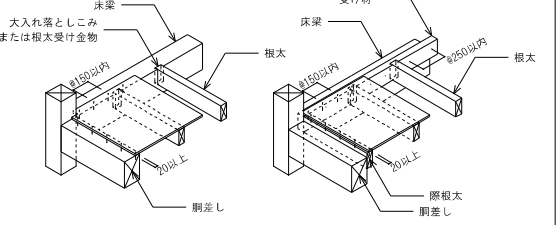
	構造用面材	材料規格	最小厚さ	釘の種類	間 隔
●	構造用合板	JAS 233	12 (mm)	N50、CN50	75、150 (mm)
○	パーティクルボード	JIS A 5908	15 (mm)		
○	構造用パネル	JAS 238	24、28 (mm)		

・構造用合板の長手方向を根太と直交させ、かつ、千鳥ばりとする。継手は根太上で突きつけ継ぎとし、継目下に断面寸法45×45 (mm) 以上の受け材を設ける。

・柱と床ばり・胴差し同士もしくははりとはり胴差しの仕口は、金物、ボルトにより緊結補強する。

- A. 根太とはり、胴差しの上端高さが同じ場合
- 根太間隔は500 (mm) 以下とする。
 - 根太は床梁、胴差しに大入れ落しこみ 2N75 釘斜め打ちとするか、又は根太受け金物等を用いて床梁、胴差しに留めつける。
 - 構造用面材は、はり、胴差しに20 (mm) 以上乗せて釘を平打ちして直貼りする。
 - 隅角部では柱があるため構造用合板のコーナー部を欠いて釘打ちする。

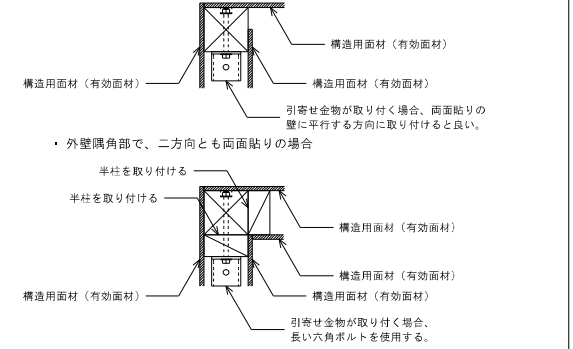
- B. 根太とはり、胴差しの上端高さが異なる場合
- 根太間隔は300 (mm) 以下とする。
 - はり、胴差しに直交する根太は渡り懸掛けとし、N75釘2本を斜め打ちとする。
 - はり、胴差しの際に、際根太または根太と同等以上の受け材をN90釘を間隔250 (mm) で千鳥に平打ちして添えつける。
 - 構造用面材は、際根太または受け材に20 (mm) 以上乗せて釘を平打ちして四周辺を固定する。



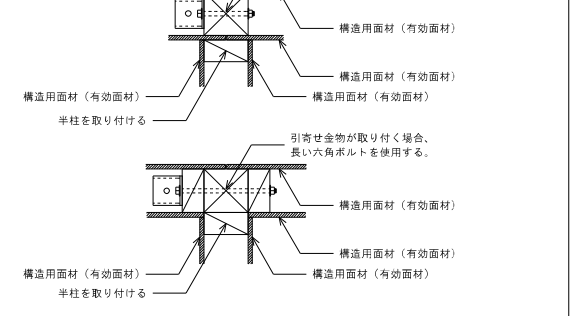
- C. 根太を用いず直接、はり、胴差しに留め付ける場合
- 床下地板は構造用合板 24 (mm) 以上を使用する。
 - はりまたは胴差しにN75釘を間隔150 (mm) 以下で平打ちし、四周辺を固定する。

- 大引、床束による床組み
- 大引きの断面寸法は、105×105 (mm) を標準とする。
 - 大引きと土台の仕口は、大入れ懸掛け、腰掛け、または乗せ掛けとし、いずれもN75釘2本斜め打ちとする。
 - 大引きと柱の仕口は、添木を柱に取り付けたのち乗せ掛けとするか、柱に大入れとする。いずれもN75釘2本斜め打ちとする。
 - 床束の断面寸法は、90×90 (mm) を標準とする。
 - 床束と大引きの仕口は、突き付けにしてN75釘を斜め打ちの上、かすがい打ちとする。
 - 床束の下部は、束石に突き付けとし、根がらみ貫を添え付け釘打ちとする。
 - プラスチックまたは鋼製束とする場合は、特記による。

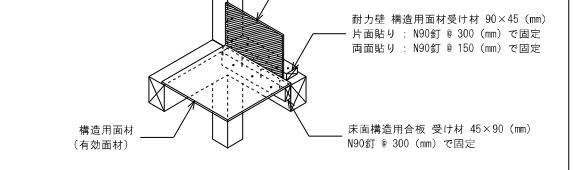
11. 耐力壁および床面の納まり
- 面材貼り耐力壁交差部の納まり (平面)
- 外壁隅角部で、一方が片面貼り、他方が片面貼りの場合



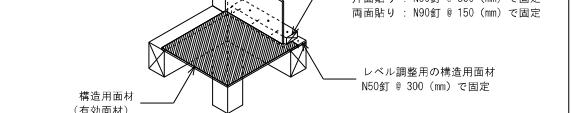
- 外壁隅角部で、二方向とも片面貼りの場合



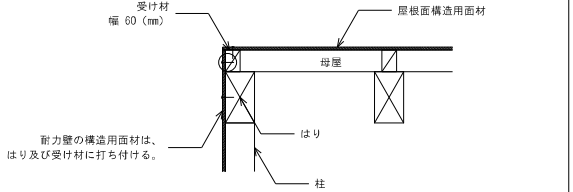
- 面材貼り耐力壁と床面の納まり
- 壁面を優先する場合



- 床面を優先する場合



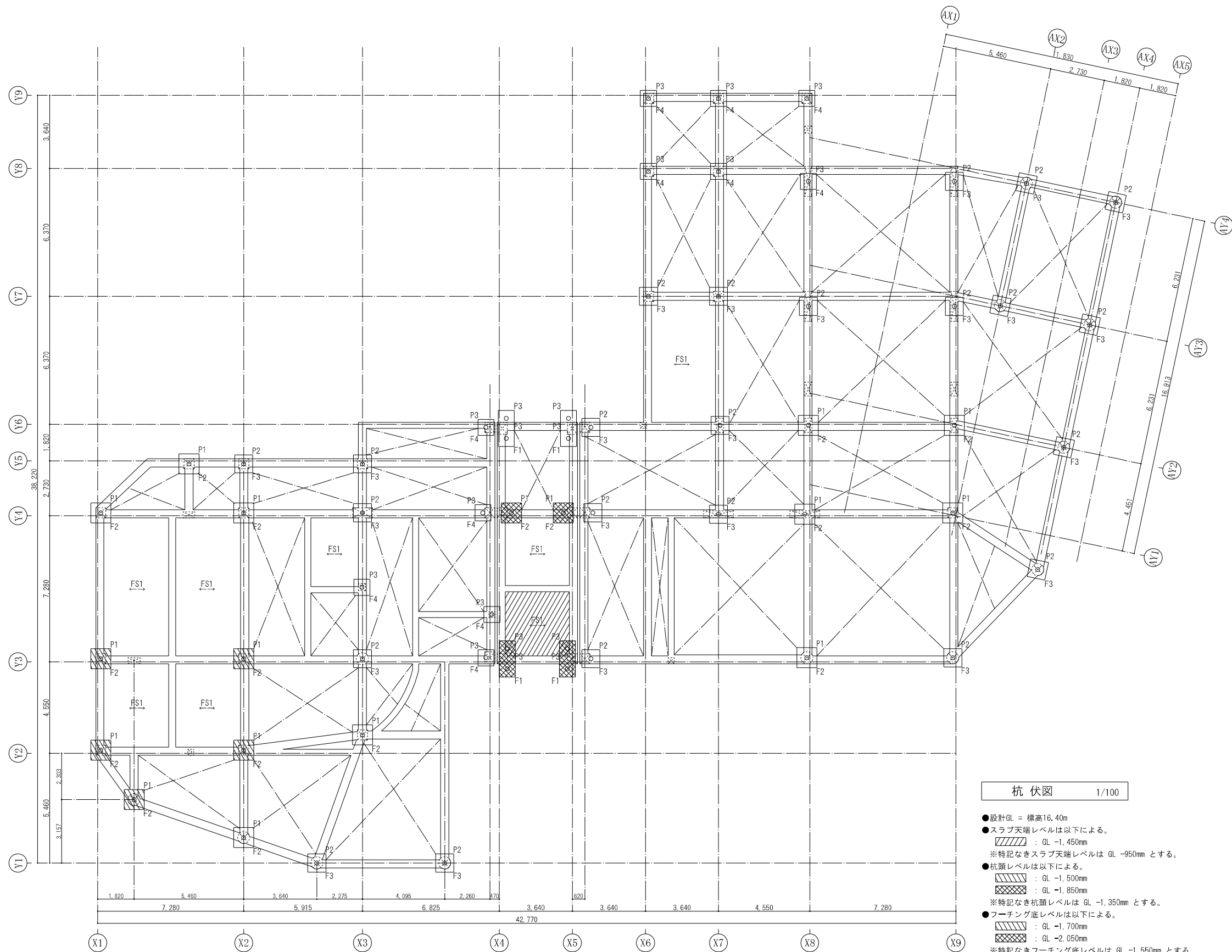
- 面材貼り耐力壁と屋根面の納まり (母屋とはりの上端高さが異なる場合)



12. 柱頭・柱脚接合部金物 (平成12年建設省告示第1460号表3に対応)

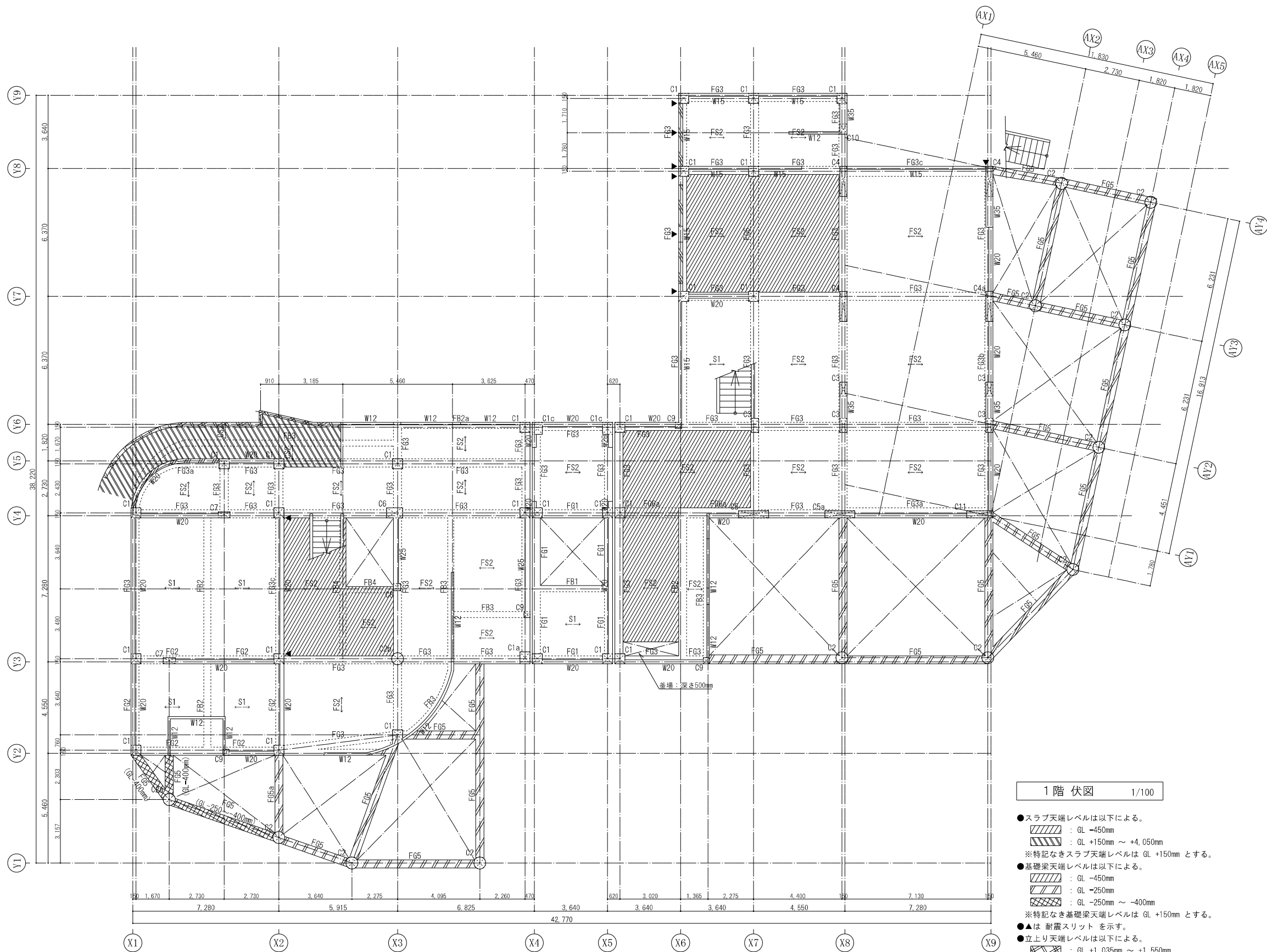
図 号 名 称	は かど金物 (I字型金物)	は かど金物 (V字型金物、山形金物)	に 角形板ボルト (釘なし)	に 短冊金物 (釘なし)
詳 細				





杭 伏 図 1/100

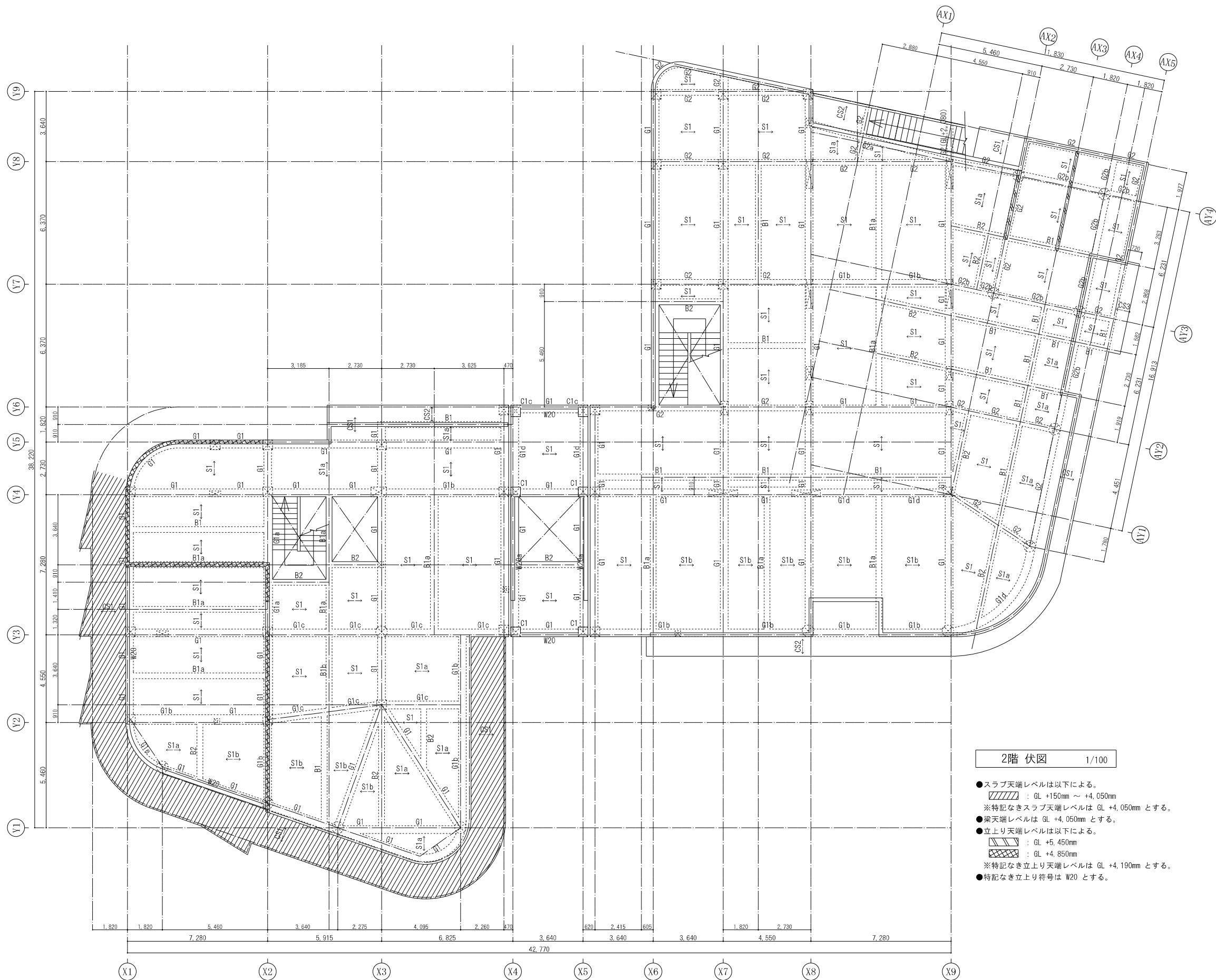
- 設計GL = 標高16.40m
- スラブ天端レベルは以下による。
// : GL -1.450mm
※特記なきスラブ天端レベルは GL -950mm とする。
- 杭頭レベルは以下による。
// : GL -1.500mm
// : GL -1.850mm
※特記なき杭頭レベルは GL -1.350mm とする。
- フーチング底レベルは以下による。
// : GL -1.700mm
// : GL -2.050mm
※特記なきフーチング底レベルは GL -1.550mm とする。



1階 伏図 1/100

- スラブ天端レベルは以下による。
 - 斜線：GL -450mm
 - 点線：GL +150mm ~ +4,050mm
 - ※特記なきスラブ天端レベルは GL +150mm とする。
- 基礎梁天端レベルは以下による。
 - 斜線：GL -450mm
 - 点線：GL -250mm
 - 斜線：GL -250mm ~ -400mm
 - ※特記なき基礎梁天端レベルは GL +150mm とする。
- ▲は 耐震スリット を示す。
- 立上り天端レベルは以下による。
 - 斜線：GL +1,035mm ~ +1,550mm
 - 点線：GL +2,300mm ~ +2,730mm
 - 斜線：GL +2,450mm
 - ※特記なき立上り天端レベルは GL +1,550mm とする。

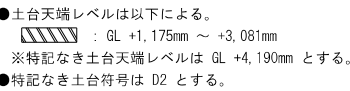


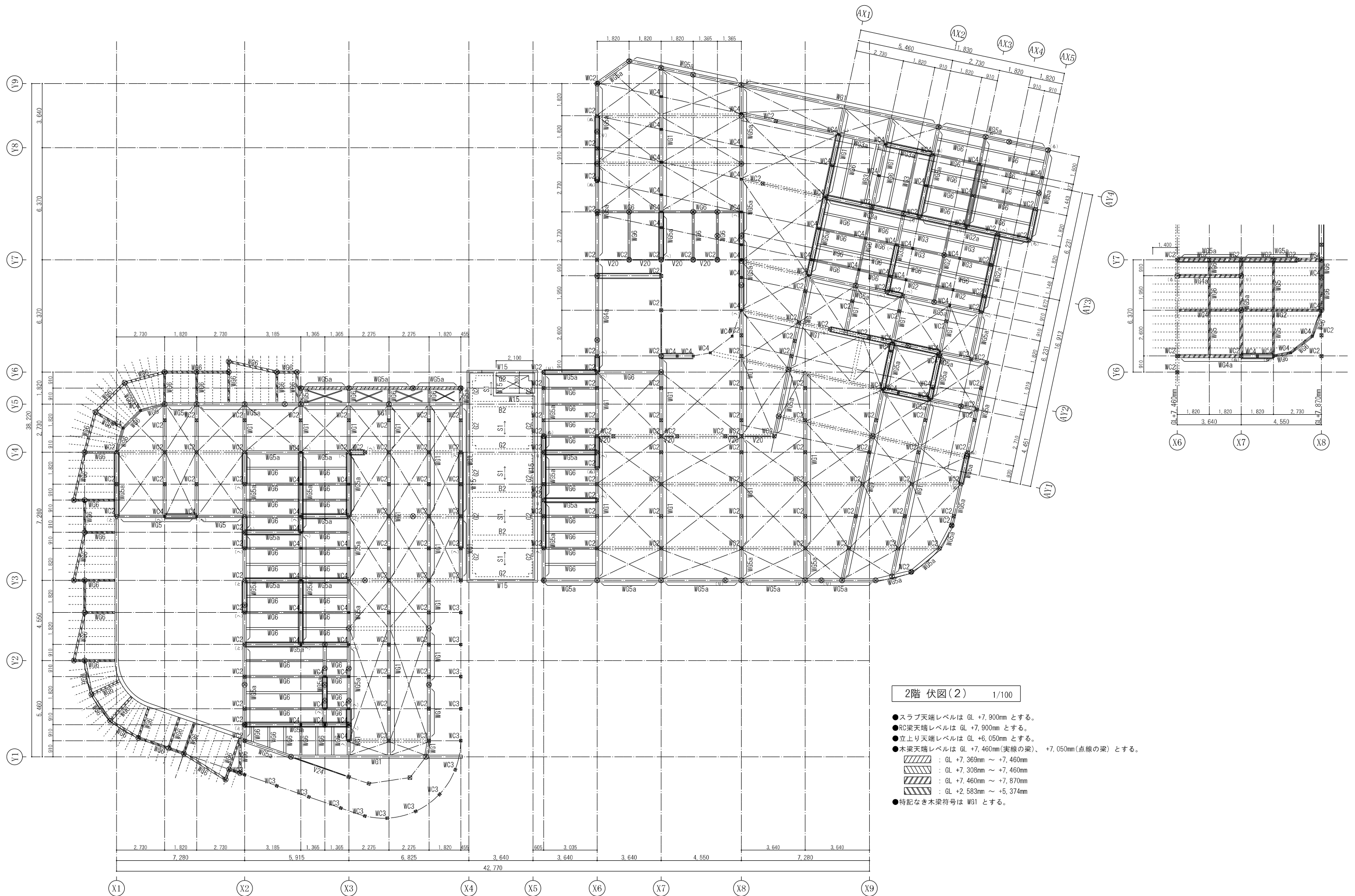


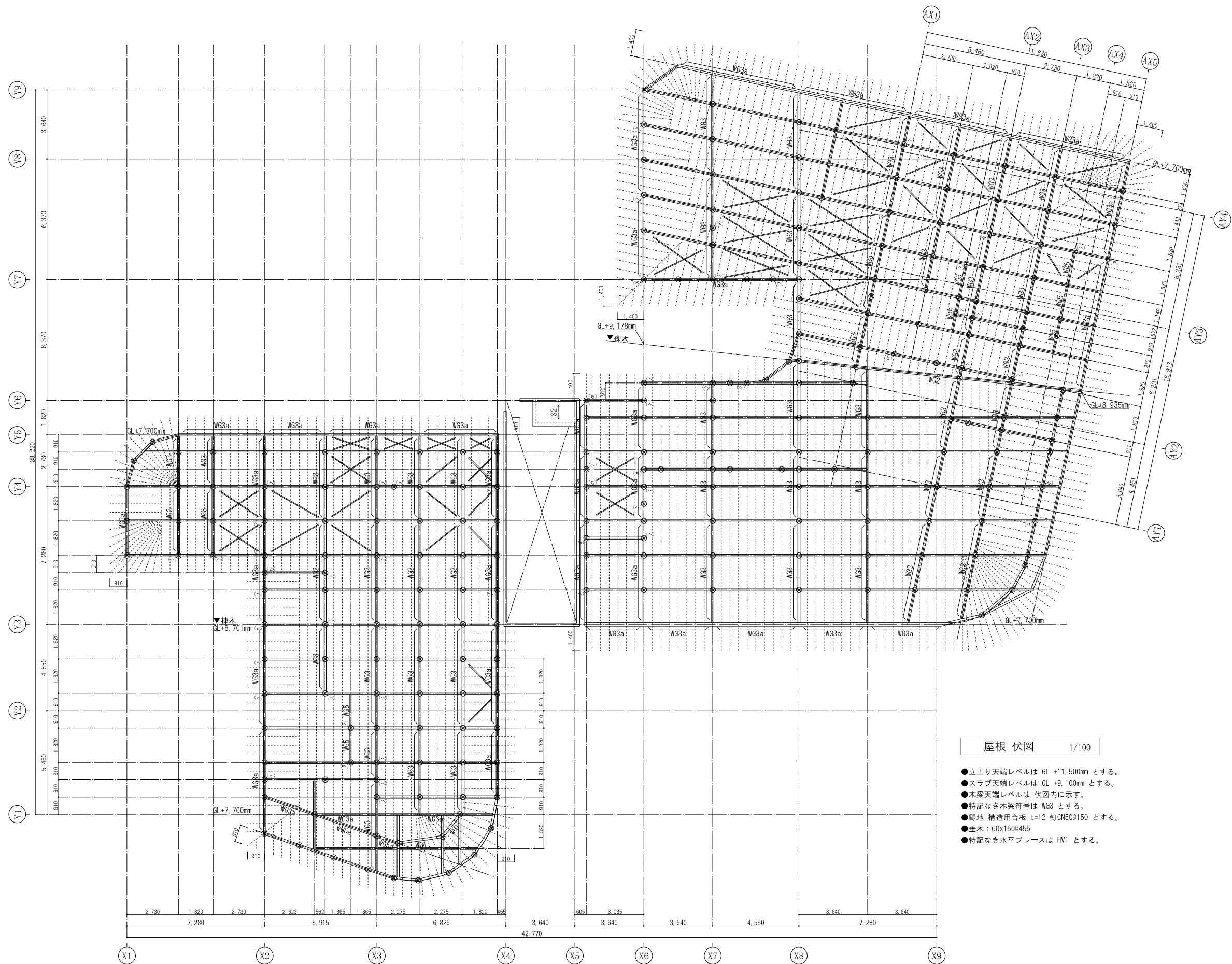
2階 伏図 1/100

- スラブ天端レベルは以下による。
 - 斜線：GL +150mm ~ +4,050mm
 - ※特記なきスラブ天端レベルは GL +4,050mm とする。
- 梁天端レベルは GL +4,050mm とする。
- 立上り天端レベルは以下による。
 - 斜線：GL +5,450mm
 - 斜線：GL +4,850mm
 - ※特記なき立上り天端レベルは GL +4,190mm とする。
- 特記なき立上り符号は W20 とする。





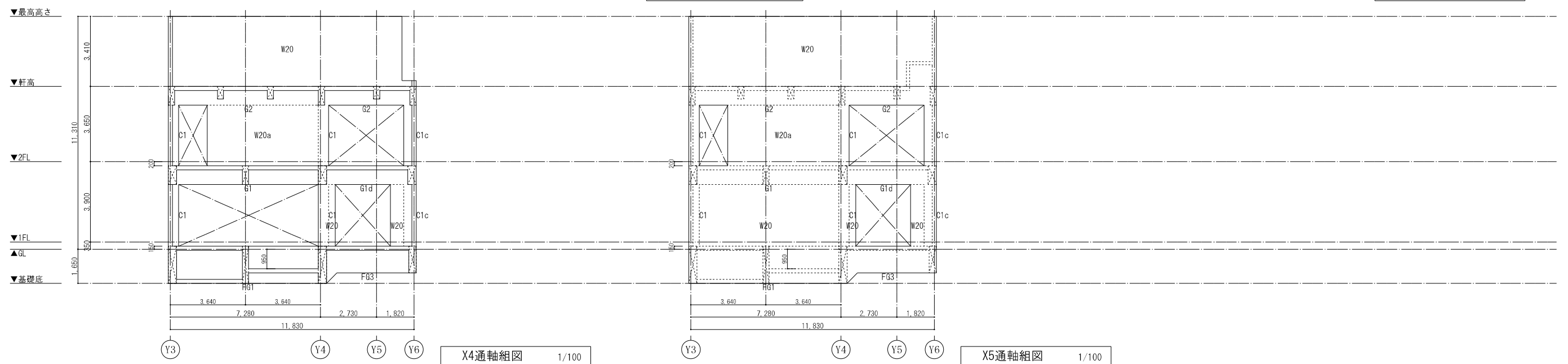
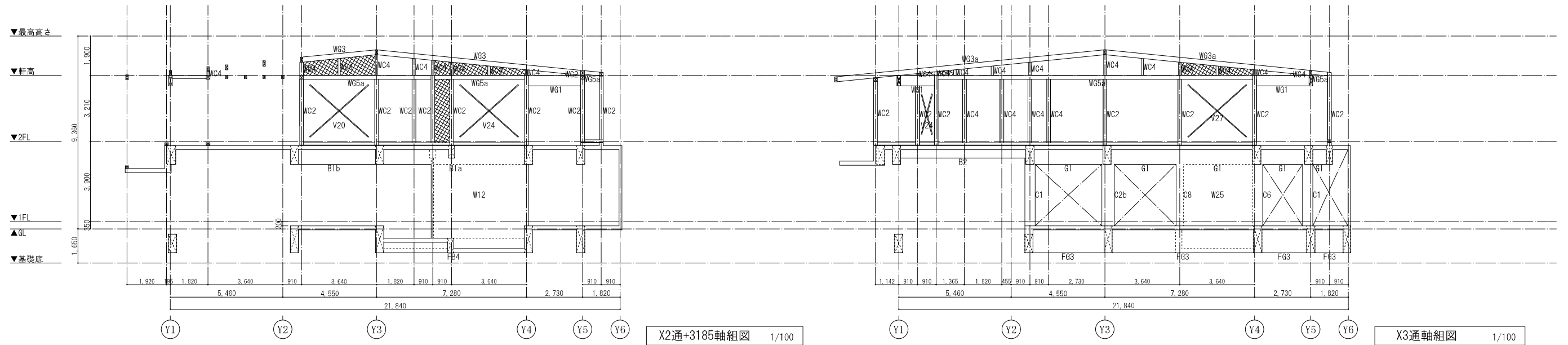
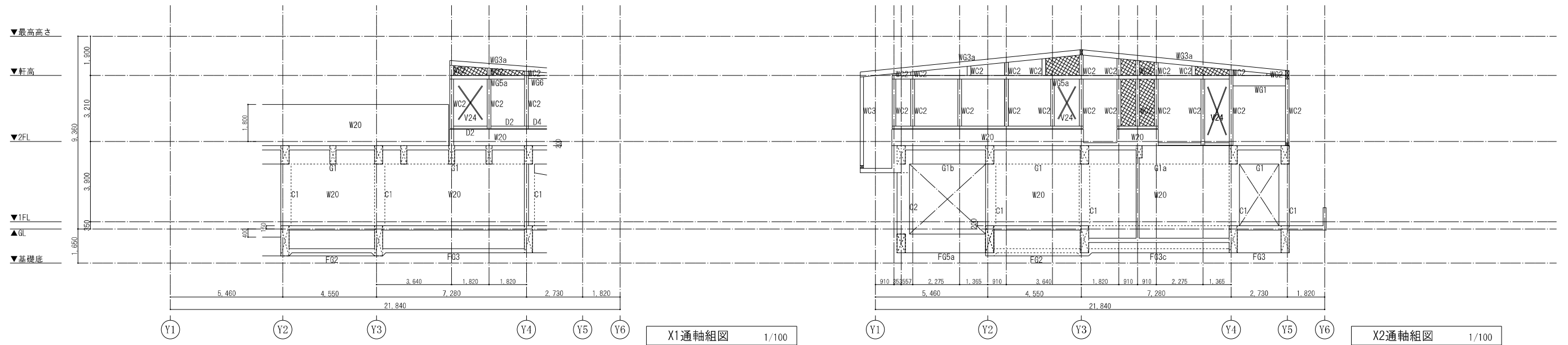


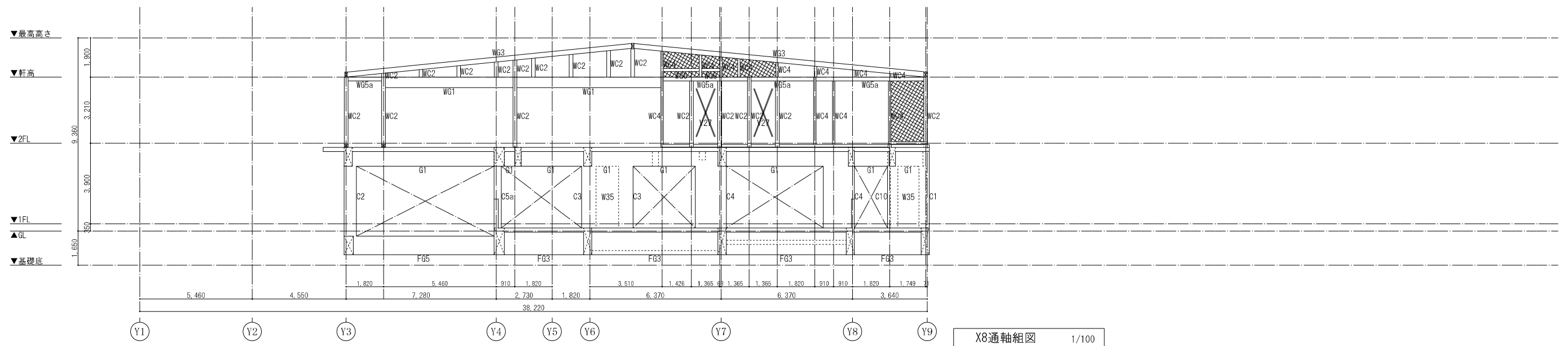
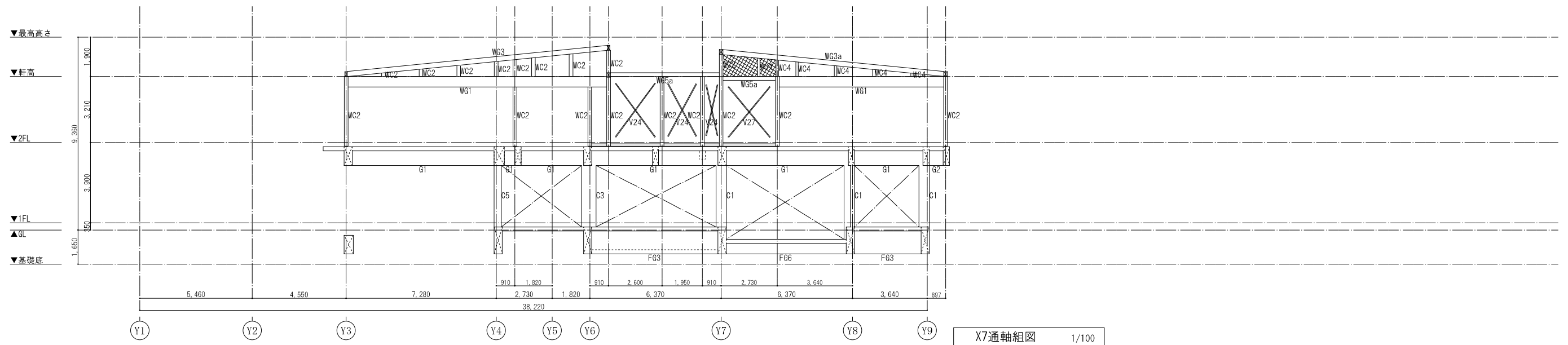
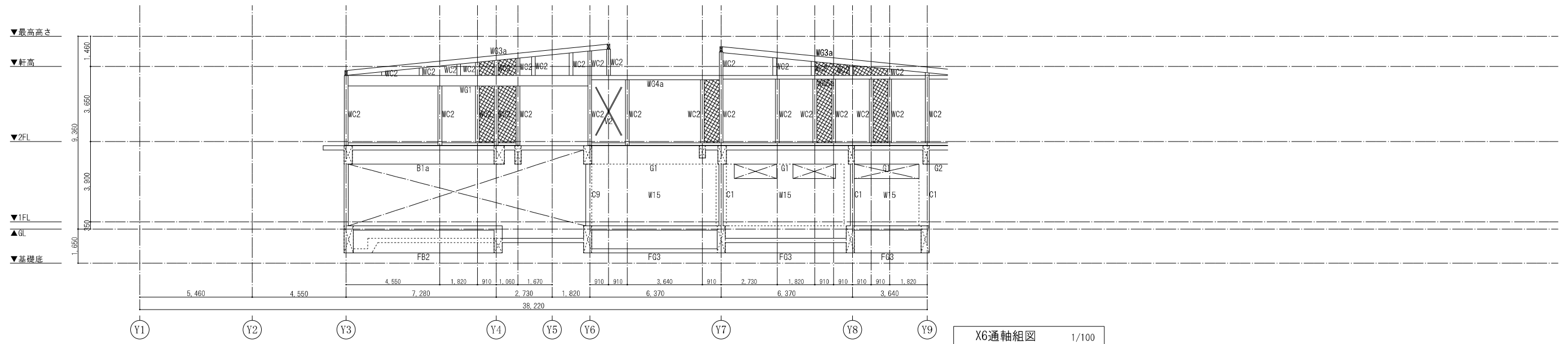


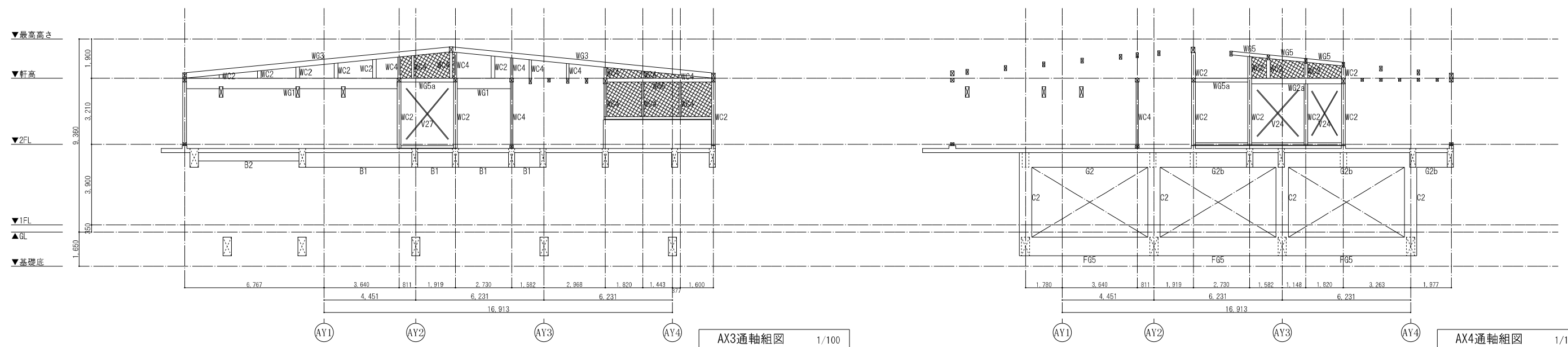
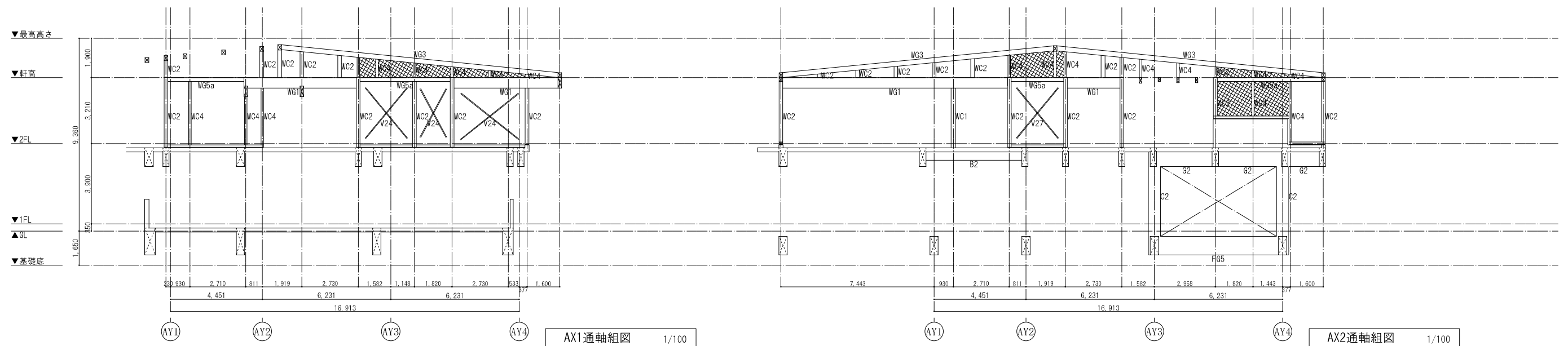
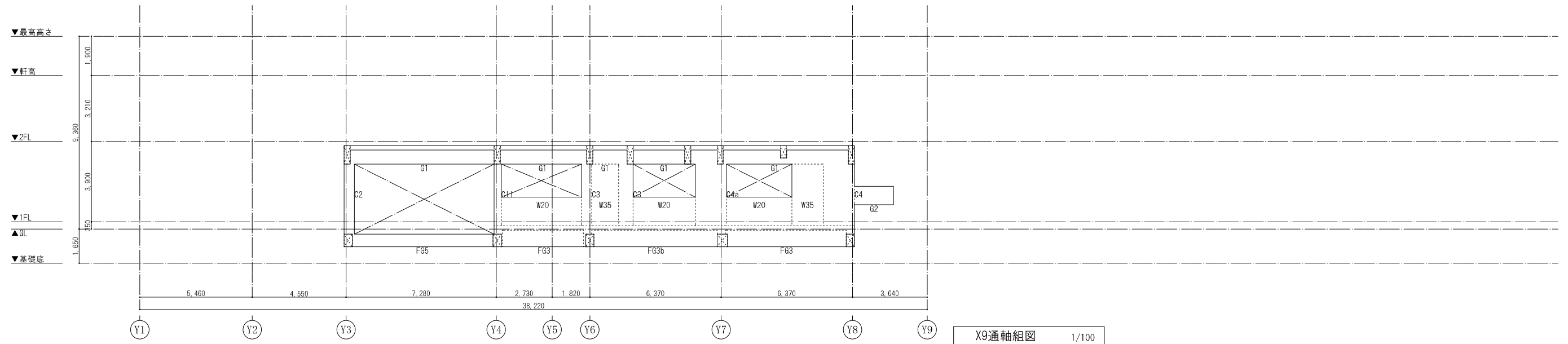
屋根 伏図 1/100

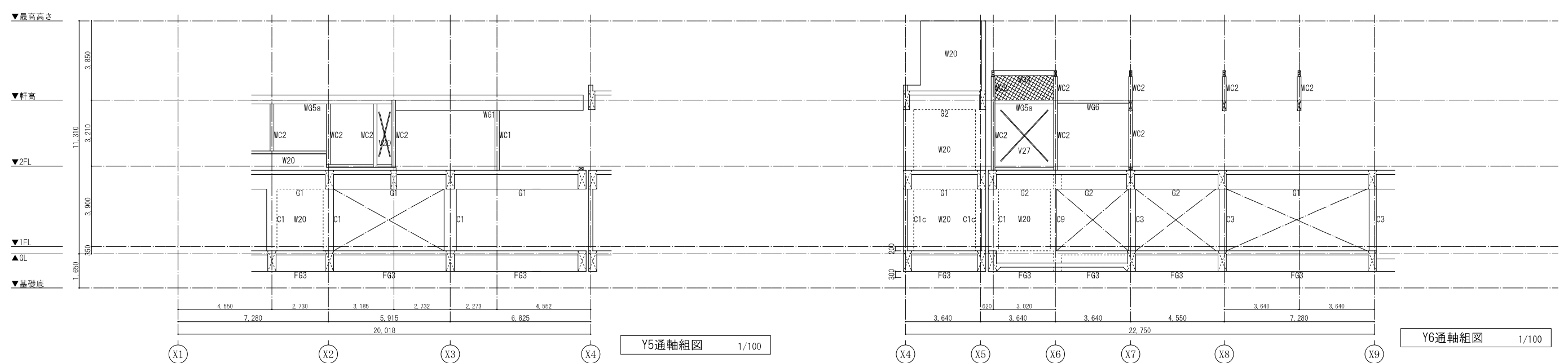
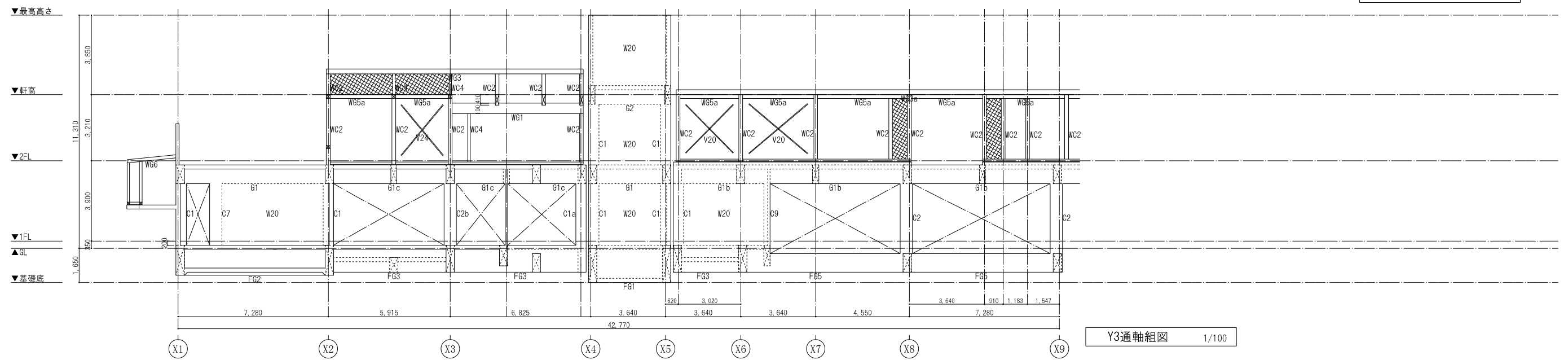
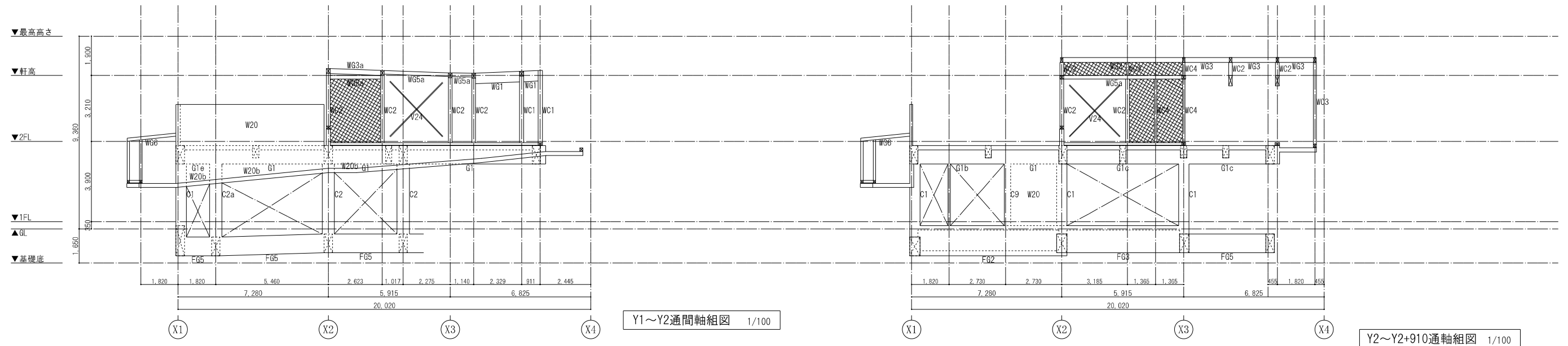
- 立上り天端レベルは GL +11.500mm とする。
- スラブ天端レベルは GL +9.100mm とする。
- 木梁天端レベルは 伏図内に示す。
- 特記なき木梁符号は WG3 とする。
- 野地 構造用合板 t=12 釘CN50φ150 とする。
- 垂木 : 60x150#455
- 特記なき水平ブレースは HV1 とする。

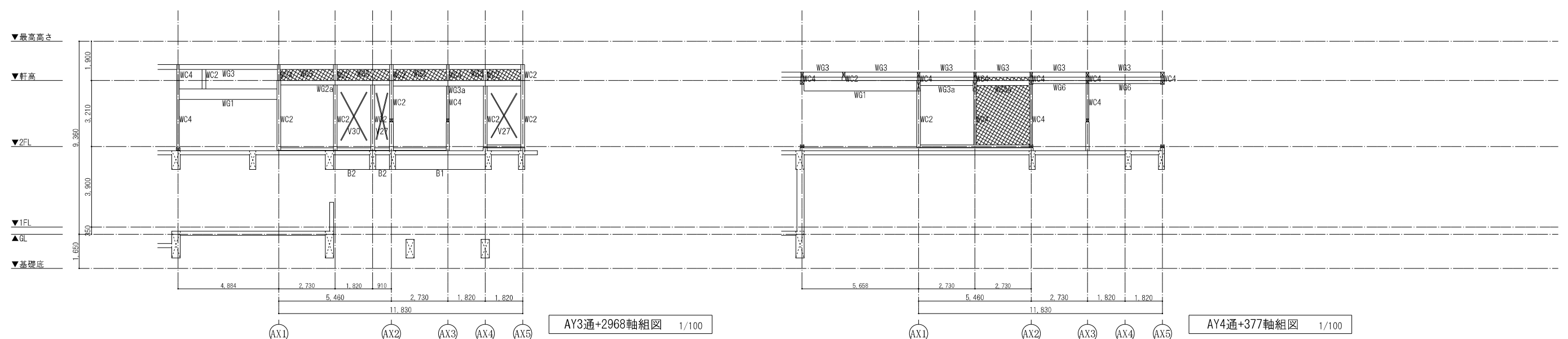
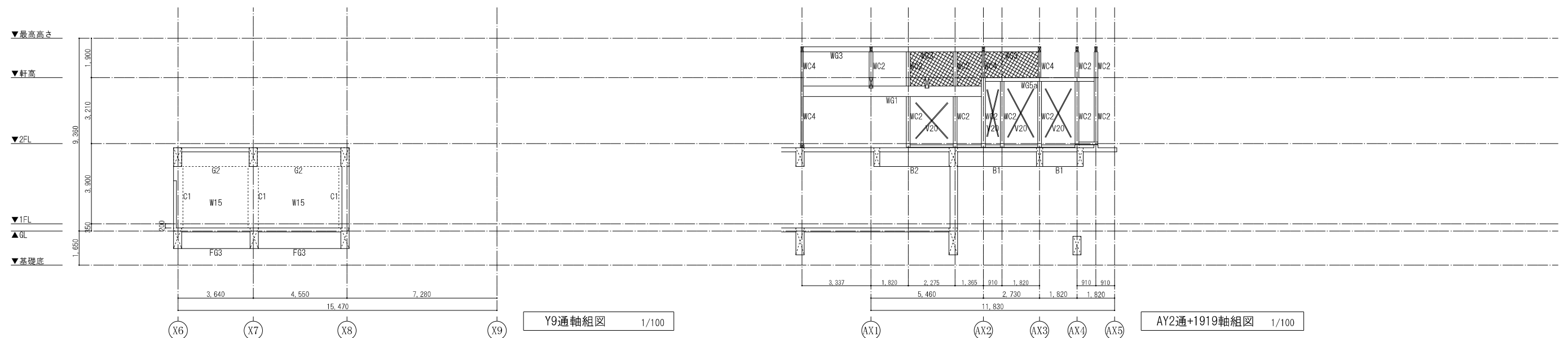
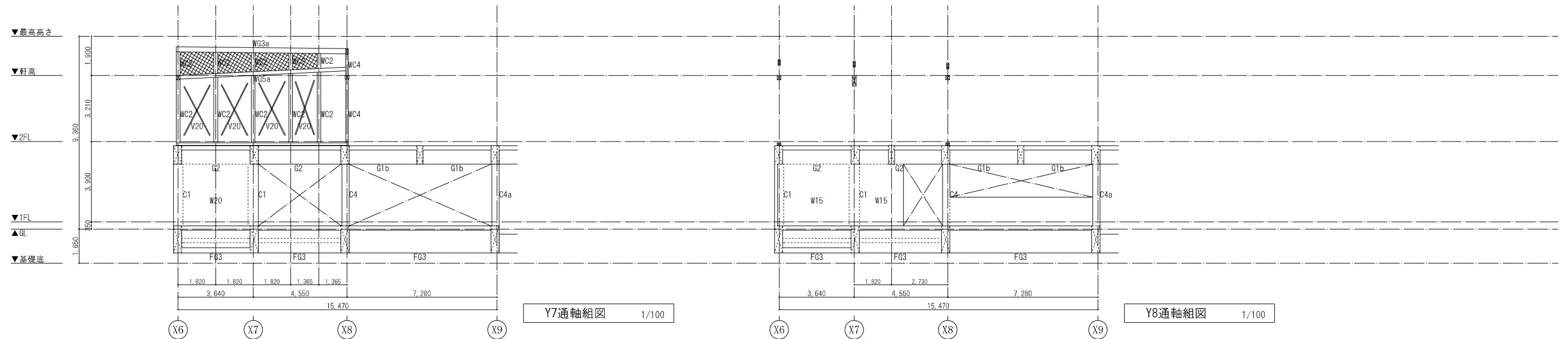


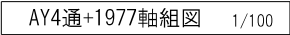


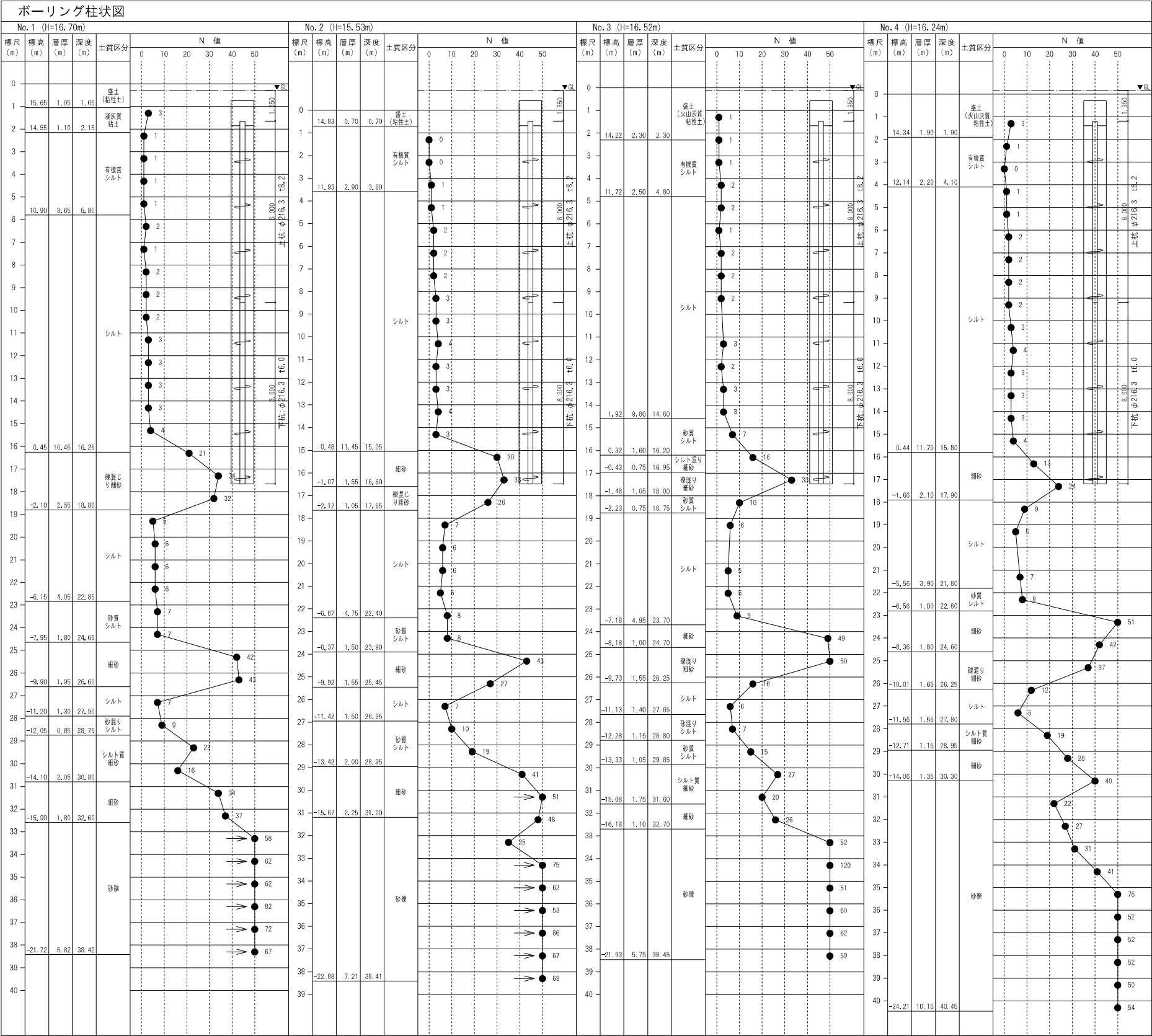












杭工事仕様				
工 法	ATTコラム工法			
	[認定番号 TADP-0515]			
杭 種	羽根付き鋼管杭 : SEAH590[STKT590], STK490			
	材料強度			
位 置	F = 440, 325 (N/mm ²)			
	符 号	P1	P2	P3
上 杭	杭 種	SEAH590 [STKT590]	SEAH590 [STKT590]	SEAH590 [STKT590]
	軸 径	216.3 (mm)	216.3 (mm)	216.3 (mm)
	板 厚	8.2 (mm)	8.2 (mm)	8.2 (mm)
	コラム径	1000 (mm)	900 (mm)	700 (mm)
下 杭	杭 種	STK490	STK490	STK490
	軸 径	216.3 (mm)	216.3 (mm)	216.3 (mm)
	板 厚	6.0 (mm)	6.0 (mm)	6.0 (mm)
	羽根径	700 (mm)	600 (mm)	500 (mm)
支持力	コ ラ ム 径	1000 (mm)	900 (mm)	700 (mm)
	長 期	806 (kN)	659 (kN)	513 (kN)
	短 期	1209 (kN)	1209 (kN)	1026 (kN)
継 手		無溶接継手	AK	AK
詳 細				
	符 号	P1	P2	P3
	杭 頭	8 -D19	8 -D19	8 -D22
	補強筋	SD345	SD345	SD345
	材 質	SD345	SD345	SD345
	溶接部長	9 (mm)	9 (mm)	9 (mm)
	X方向	±100 (mm)		
	Y方向	±100 (mm)		
	Z方向	±30 (mm)		
	施工誤差許容値			



フーチングリスト 1/30

符 号	F1	F2	F3	F4
断 面	1,800 x800 x1,400	1,000 x1,000 x1,100	900 x900 x1,100	800 x800 x1,100
杭	P3	P1	P2	P3
詳 細				
備 考				

基礎梁リスト 1/30

符 号	F61	F62	F63	F63a	F63b	F63c
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面						
B x D	400 x 1,800	400 x 1,450	400 x 1,300	550 x 1,300	500 x 1,300	500 x 1,300
上端筋	4/1 D22	4/1 D22	4/2 D22	7/3 D22	6/4 D22	6 D22
下端筋	4 D22	4/2 D22	4/3 D22	7/7 D22	6 D22	6/4 D22
S T P	□ - D13 #200	□ - D13 #200	□ - D13 #200	□ - D13 #150	□ - D13 #150	□ - D13 #150
腹 筋	10 D10	6 D10	6 D10	6 D10	6 D10	6 D10
備 考						
符 号	F64	F65	F65a	F66	F66a	
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
断 面						
B x D	400 x 1,000	400 x 900	400 x 900	400 x 700	500 x 700	
上端筋	4/3 D22	4/1 D22	4/1 D22	4 D22	5/4 D25	
下端筋	4/3 D22	4/1 D22	4/4 D22	4 D22	5 D25	
S T P	□ - D13 #200	□ - D13 #200	□ - D13 #200	□ - D13 #200	□ - D13 #200	
腹 筋	4 D10	4 D10	4 D10	2 D10	2 D10	
備 考						

[共通事項]

- 敷き砂利・捨てコンは以下の仕様とする。
敷き砂利 : 60 mm
捨てコン : 60 mm
- ふかし筋は以下の仕様とする。
主 筋 : 2-D13
キャップ筋: D10 #200

基礎小梁リスト 1/30

符 号	FB1	FB2	FB2a
位 置	全断面	全断面	全断面
断 面			
B x D	300 x 1,800	350 x 1,300	350 x 1,300
上端筋	3 D16	4/2 D16	4/3 D16
下端筋	3 D16	4/2 D16	4 D16
S T P	□ - D10 #200	□ - D10 #200	□ - D10 #200
腹 筋	10 D10	6 D10	6 D10
備 考			
符 号	FB3	FB4	
位 置	全断面	全断面	
断 面			
B x D	300 x 1,000	300 x 700	
上端筋	3 D16	2/2 D22	
下端筋	3/1 D16	2/2 D22	
S T P	□ - D10 #200	□ - D10 #200	
腹 筋	4 D10	2 D10	
備 考			



RC柱リスト 1/30

符号	C1	C1a	C1b	C1c	C2	C2a
断面						
B x D	500 x 500	500 x 650	500 x 500	500 x 600	600Φ	600Φ
主筋	12 -D25	20 -D25	12 -D25	18 -D25	12 -D25	16 -D25
H00P	□ - D13 #100	□ - D13 #100	□ - D13 #100	□ - D13 #100	□ - D13 #200	□ - D13 #100
符号	C2b	C3	C4	C4a	C5	C5a
断面						
B x D	600Φ	350 x 700	350 x 1,500	350 x 1,500	1,500 x 350	1,500 x 350
主筋	16 -D25	12 -D25	24 -D25	34 -D25	18 -D25	18 -D25
H00P	□ - D13 #100	□ - D10 #100	□ - D10 #100	□ - D10 #100	□ - D13 #100	□ - D13 #100
符号	C6	C7	C8	C9	C10	C11
断面						
B x D	800 x 500	600 x 300	350 x 350	300 x 300	350 x 500	1,400 x 350
主筋	18 -D25	6 -D25	12 -D16	8 -D16	18 -D16	32 -D25
H00P	田 - D13 #100	田 - D10 #100	□ - D10 #100	□ - D10 #100	□ - D10 #100	田 - D16 #100

RC大梁リスト 1/30

符 号	G1	G1a	G1b
位 置	全断面	全断面	全断面
断面			
B x D	400 x 900	500 x 900	400 x 900
上端筋	4 -D22	6 -D22	5/2 -D22
下端筋	4 -D22	7/7 -D22	5/2 -D22
S I P	□ - D13 #200	□ - D13 #150	□ - D13 #200
腹筋	4 -D10	4 -D10	4 -D10
備考			
符 号	G1c	G1d	G1e
位 置	全断面	全断面	全断面
断面			
B x D	400 x 900	400 x 900	400 x 900
上端筋	5/5 -D22	4/2 -D22	5/2 -D22
下端筋	5 -D22	4 -D22	5/4 -D22
S I P	□ - D13 #200	□ - D13 #200	□ - D13 #150
腹筋	4 -D10	4 -D10	4 -D10
備考			
符 号	G2	G2a	G2b
位 置	全断面	全断面	全断面
断面			
B x D	300 x 900	300 x 900	300 x 900
上端筋	3 -D22	3 -D22	3/1 -D22
下端筋	3 -D22	3/3 -D22	3/1 -D22
S I P	□ - D10 #200	□ - D10 #200	□ - D10 #200
腹筋	4 -D10	4 -D10	4 -D10
備考			

RC小梁リスト 1/30

符 号	B1	B1a
位 置	全断面	全断面
断面		
B x D	300 x 900	300 x 900
上端筋	4/3 -D16	3/3 -D22
下端筋	4/3 -D16	3/3 -D22
S I P	□ - D10 #200	□ - D10 #200
腹筋	4 -D10	4 -D10
備考		
符 号	B1b	B2
位 置	全断面	全断面
断面		
B x D	300 x 900	300 x 600
上端筋	3/1 -D22	4/2 -D16
下端筋	3/1 -D22	4/2 -D16
S I P	□ - D10 #200	□ - D10 #200
腹筋	4 -D10	2 -D10
備考		

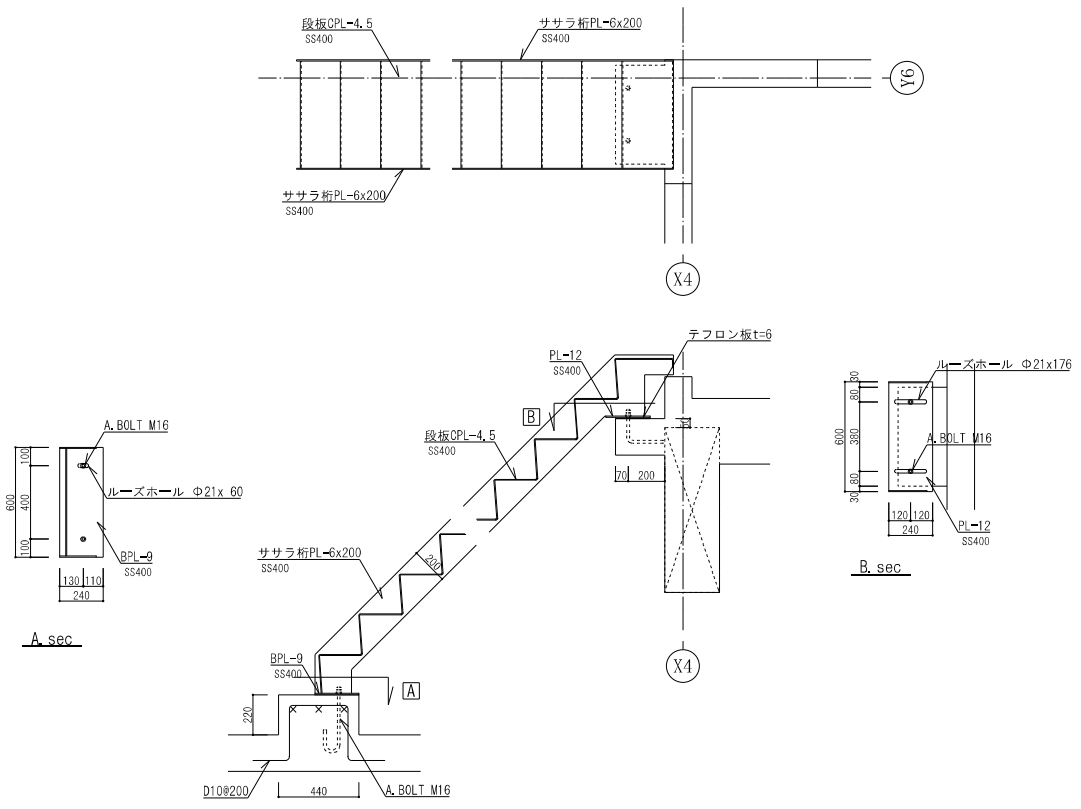
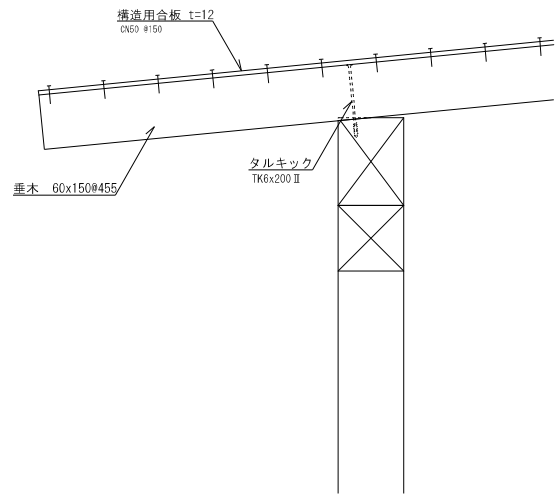
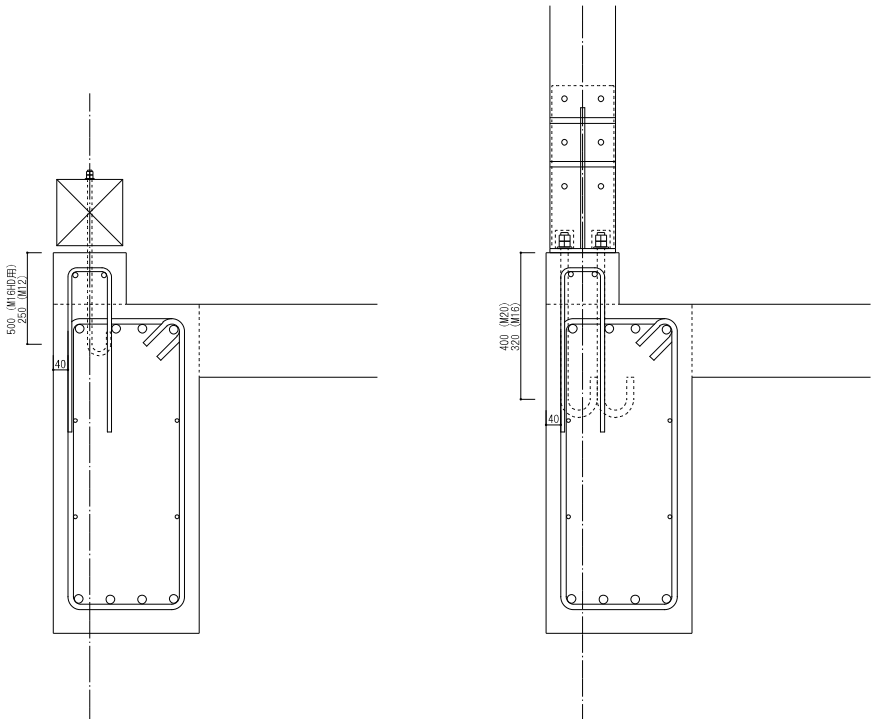
スラブリスト 1/30

符号	FS1	FS2	S1
断面			
備考			
符号	S1a	S1b	S2
断面			
備考			
符号	CS1	CS2	CS3
断面			
備考			

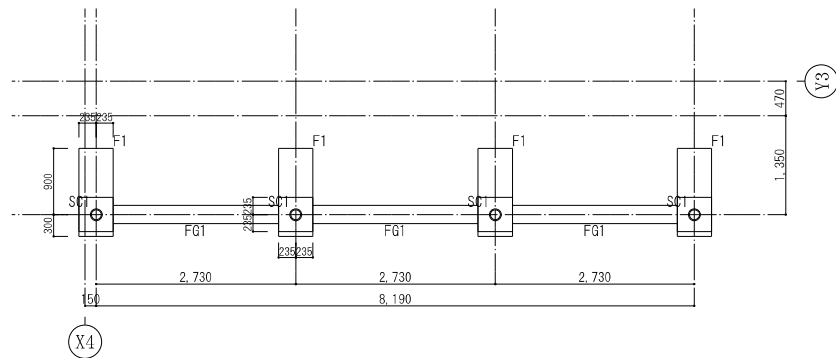
壁断面リスト 1/30

符 号	W35	W25	W20	W20a	W20b	W15	W12
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面							
縦筋	D13 #150 (ダブル)	D13 #200 (ダブル)	D13 #200 (ダブル)	D13 #200 (ダブル)	D13 #100 (ダブル)	D10, D13 #200 (シングル)	D10, D13 #200 (シングル)
横筋	D13 #150 (ダブル)	D13 #200 (ダブル)	D13 #200 (ダブル)	D13 #150 (ダブル)	D13 #200 (ダブル)	D13 #150 (シングル)	D10, D13 #200 (シングル)
開口補強筋	縦 2 -D16 横 2 -D16 斜 2 -D13	縦 2 -D13 横 2 -D13 斜 2 -D13	縦 2 -D13 横 2 -D13 斜 2 -D13	縦 2 -D16 横 2 -D16 斜 3 -D16	縦 2 -D13 横 2 -D13 斜 2 -D13	縦 1 -D13 横 1 -D13 斜 1 -D13	縦 1 -D13 横 1 -D13 斜 1 -D13
幅止筋	D10 #900	D10 #1000	D10 #1000	D10 #900	D10 #1000		
備考							



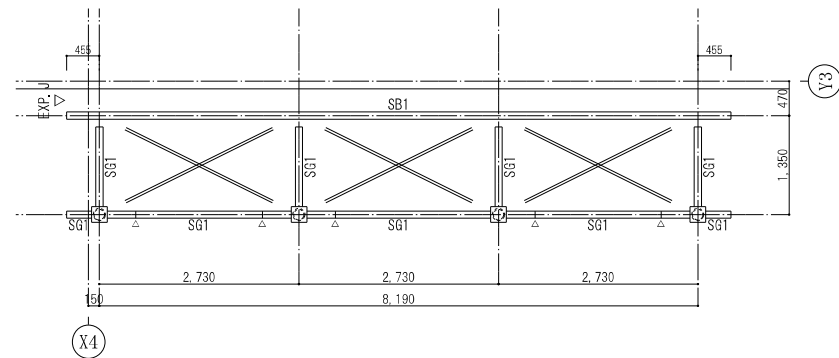
位置	屋外階段詳細図 1/20 	木屋根詳細図 1/10 	
備考	アンカーボルト詳細図 1/10 		
備考			





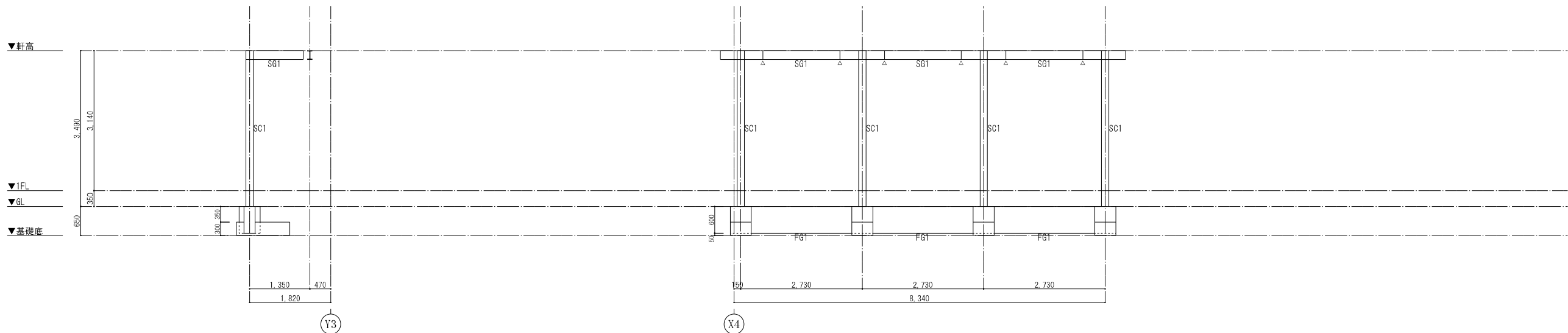
基礎 伏図 1/100

- フーチング底レベルは GL -650mm とする。
- 基礎梁天端レベルは GL ±0mm とする。
- 根切り底は十分に転圧を行うこと。
- 脆弱部分は砕石置換を行い、十分に転圧を行うこと。



屋根 伏図 1/100

- 梁天端レベルは GL +3,490mm とする。
- 特記なき水平ブレースは HV1 とする。
- △は、継手位置を表す。
- 特記なき継手位置は、柱芯より500mmとする。
- エキスパンション部の有効空き寸法は 35mm以上 とする。



X4通+150 軸組図 1/100

Y3通-1820 軸組図 1/100



フーチングリスト 1/30

符 号	F1
断 面	470 x1,200 x300
詳 細	
備 考	

基礎梁リスト 1/30

符 号	F61
位 置	全断面
断 面	
B x D	250 x 600
上端筋	2 -D16
下端筋	2 -D16
S T P	□ - D10 #200
腹 筋	2 -D10
備 考	

鉄骨柱リスト 1/20

符 号	SC1
材 母 材	STK400
材 質	SN490C
断 面	
柱 脚	
ベースプレート	BPL-290x290x32, SN490C
アンカーボルト	4 -M24, L=480mm, ABR400
定着板/座金	定着板: □-75x75x16
柱 型	470x470
備 考	主筋: 8-D16, 帯筋: D13#100

鉄骨大梁リスト 1/20

符 号	SG1
主 材	H -200 x100 x5.5 x8
材 質	SN400B
詳 細	
フランジ	SPL HTB 2SPL-16x100x290
ウェブ	SPL HTB 2SPL-6x140x170
スタッドコネクタ	2 -M16
備 考	

鉄骨小梁リスト 1/20

符 号	SB1
主 材	H -200 x100 x5.5 x8
材 質	SS400
詳 細	
ウェブ	SPL HTB GPL-9
スタッドコネクタ	2 -M16
備 考	

ブレースリスト 1/10

符 号	HV1
材 質	SNR400B
詳 細	
溶接長L	50mm 以上
備 考	M12 JISブレース